１年　こども学科

こども学科教育課程表（2024年度（令和6年）入学生）

区分		ナンバリング	科目	単位 授業の方法	必修	選択	開講時期 1年生 前	1年生 通	1年生 後	2年生 前	2年生 通	2年生 後	担当教員名	卒必	幼二種	保育士	こども音楽療育士	准学校心理士	備考
教養科目	人間と文化		日本文化	講義		2							開講せず						［教養科目］
		31200	芸術に親しむ	講義		2	○						七字純子/長谷川裕久						卒業要件：14単位以上（必修含む）
			子どもと読書	講義		2							開講せず						「人間と文化」 2単位以上
		21221	こども未来学	講義		2	○						助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤			○			「人間と社会」 2単位以上
		33200	ウィンドアンサンブル入門	演習		1		◇					八木澤香菜						「生活と科学」 2単位以上
	人間と社会	21211	日本国憲法	講義		2	○						小口恵巳子		○				ウィンドアンサンブル入門
			生涯学習概論	講義		2							開講せず						（◇年間15回）
		32121	女性学	講義	2				○				小林和子/小口恵巳子	○		○			
		31200	女性と社会生活	講義		2	○						辻京子						
		23121	キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○					佐藤/助川/国府田/馬立/加茂川/安藤/小口/森井/白土/*八木澤	○		○			
			キャリア形成ゼミⅡ	演習	1						○			○		○			
	生活と科学	31200	生活と環境	講義		2	○						佐藤隆						
		32200	身体のしくみと働き	講義		2			○				安嶋隆						
	実務と情報	21211	マルチメディア演習	演習		2	○						小松崎浩司		○				
			プレゼンテーション入門	講義		2							開講せず						
	人間と健康	33231	健康とスポーツ	講義		1		○					赤堀文也		○	○			
				実技		1													
		31200	ダンス入門	実技		1	○						国府田はるか						
	外国語	23131	英語Ⅰ	演習	2			○					内桶真二	○	○	○			
専門科目	目的	22231	教育原理	講義		2			○				助川公継		○	○			［専門科目］
		22231	保育者論	講義		2			○				小口恵巳子		○	○			卒業要件48単位以上（必修含む）
		22221	子ども家庭福祉	講義		2			○				安藤みゆき			○			△ 資格選択科目
		21263	社会福祉	講義		2	○						安藤みゆき			○	△		
			子ども家庭支援論	講義		2						○				○			
		21121	保育原理	講義	2		○						小口恵巳子	○		○			
			社会的養護Ⅰ	講義		2				○						○			
	対象	21141	保育の心理学	講義	2		○						安藤みゆき	○	○	○	△	○	
			子どもの理解と援助	演習		1						○			○	○	△		
		21163	子どもの保健	講義	2		○						渡辺政子	○		○	△		
			子どもの食と栄養	演習		2					○					○			
			子ども家庭支援の心理学	講義		2						○				○	△		
			幼児理解と教育相談	講義		2						○			○	△	△	○	
	領域	22161	幼児と音楽Ⅰ	演習	1				○				兼氏ちな美	○		○	○		
		21221	幼児と音楽Ⅱ	演習		1	○						和泉田/八木澤：清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶			○			
		22224	幼児と音楽Ⅲ	演習		1			○				和泉田/八木澤：清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶			△			
		22121	幼児と造形	演習	1				○				七字純子	○		○			
		22231	幼児と表現	演習		1			○				加茂川くるみ		○	○			
		21131	幼児と健康Ⅰ	演習	1		○						国府田はるか	○	○	○			
		22221	幼児と健康Ⅱ	演習		1			○				国府田はるか			○			
		22231	幼児と言葉	演習		1			○				森井榮治		○	○			
			音楽演習Ⅰ	演習		1				○							○		
			音楽演習Ⅱ	演習		1						○					○		
		22261	音楽演習Ⅲ	演習		1			○				和泉田寛			○	○		
		21232	幼児と環境	講義		2	○						助川公継		○	△			
	内容・方法	22221	保育の計画と評価	講義		2			○				佐藤隆			○			
		21232	教育課程論	講義		2	○						加茂川くるみ		○	△			
		21131	保育内容総論	演習	1		○						石井純一	○	○	○			
			保育内容演習（健康）	演習		1						○			○	○			
			保育内容演習（人間関係）	演習		1						○			○	○			
			保育内容演習（環境）	演習		1				○					○	○			
			保育内容演習（言葉）	演習		1				○					○	○			
			保育内容演習（表現）	演習		1				○					○	○			
		21221	乳児保育Ⅰ	講義		2	○						橋本祥子			○			
		22221	乳児保育Ⅱ	演習		1			○				富田浩子			○			
			子どもの健康と安全	演習		1						○				○	△		
			特別支援教育の基礎	演習		2					○				○	○	△	○	
			社会的養護Ⅱ	演習		1						○				○			
			子育て支援	演習		1				○						○		○	
			教育の方法と教育メディア	講義		2				○					○	△			
			保育指導法	講義		2						○			○	△			
	研究		ゼミナール	演習	2						○			○		○			
			総合表現	演習	1							○		○		○			
	実習	21211	教育実習指導	演習		1	○						加茂川くるみ/森井榮治		○				
			教育実習	実習		4			○				加茂川/森井/助川/佐藤/安藤/国府田/馬立/小口/白土/八木澤		○				
		22221	保育実習指導Ⅰ―A	演習		1			○				佐藤隆			○			保実指Ⅰ-A（保育所）
			保育実習指導Ⅰ―B	演習		1				○						○			保実指Ⅰ-B（施設）
		22221	保育実習Ⅰ（保育所）	実習		2			○				佐藤/助川/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤			○			保実指Ⅱ（保育所）
			保育実習Ⅰ（施設）	実習		2				○						○			保実指Ⅲ（施設）
			保育実習指導Ⅱ	演習		1				○						☆			
			保育実習Ⅱ	実習		2				○						☆			選択必修 3単位
			保育実習指導Ⅲ	演習		1				○						★			☆2科目または★2科目
			保育実習Ⅲ	実習		2				○						★			のいずれか
	実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2						○			○	○			

区分			科目	単位 授業の方法	必修	選択	開講時期 1年生 前	1年生 通	1年生 後	2年生 前	2年生 通	2年生 後	担当教員名	こども音楽療育士	備考
資格取得科目	こども音楽療育士	21271	こども音楽療育概論	講義		2	○						馬立明美	○	こども音楽療育士
		22271	こども音楽療育演習	演習		1			○				馬立明美/八木澤	○	必修○ 8単位
			こども音楽療育実習	実習		1			○				馬立明美/八木澤	○	選択△12単位以上
															合計20単位以上必要
	准学校心理士		※基礎資格要件　1条校（学校教育法）の教員免許状または保育士資格を有する者、かつ所定の単位を修得した者（取得見込みを含む）												

備考　*は後期から担当

2024/3/28 11:19

ナンバリング	31200		科目名	芸術に親しむ

担当教員	七字純子/長谷川裕久

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

この授業は「美術」について前半8回（七字担当）、「演劇」について後半8回（長谷川担当）のオムニバスになります。

１.「美術」には、ときに難解と思われる表現もありますが、「なぜ」という素朴な疑問から「美術」との楽しい対話が始まります。この授業は「美術」をやさしく親しみのある言葉で紹介するとともに、名画の表現技法を追体験する「美術入門」です。（七字）

２.総合芸術である演劇がどのように生まれ、発展し、現代に受け継がれてきたかを映像資料や体験から学び、演劇表現の豊かさを通して、現代社会での芸術の役割を考察する。（長谷川）

到達目標

1.さまざまな美術作品について知ることができます。（七字）
2.美術作品の観かたや表現技法を学ぶことで、美術の理解を深めることができます。（七字）
3.自ら積極的に美術に親しみ、豊かな感性を育てることができます。（七字）
4.舞台作品を鑑賞し、自分の言葉で感想を述べられるようになります。（長谷川）
5.さまざまな資料を使って演劇行為の歴史や特性を説明することができます。（長谷川）

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス　美術に親しむということ

02　なぜから始まる美術の楽しみ１　絵のなかの物語 / 絵のなかの人々

03　なぜから始まる美術の楽しみ２　印象派の画家たち / 光と色彩 /　点描を楽しむ

04　なぜから始まる美術の楽しみ３　写実からの解放 / キュビスム

05　なぜから始まる美術の楽しみ４　抽象表現 / シュルレアリスム / コラージュを楽しむ

06　なぜから始まる美術の楽しみ５　20世紀の美術 / 表現の多様性

07　なぜから始まる美術の楽しみ６　現代の美術 / 写真を楽しむ

08　絵本のなかの美術　いろいろな手法

まとめ　あらためて美術に親しむことの意義を考える
リフレクションシートの記入

09　演劇の黎明　言葉の獲得から生まれた芸術

10　ギリシア悲劇入門　演劇の発生と古代の表現

11　キリスト教下での演劇表現　禁欲と解放
第一回授業内レポート

12　日本の古典1　雅楽から猿楽へ　能楽の歴史

13　日本の古典2　踊りの系譜　歌舞伎誕生
第二回授業内レポート

14　オペラからミュージカル　エンターテイメントの隆盛

15　宝塚歌劇団と劇団四季

授業時間外の学修

【事前学修】

常に、美術に関心をもち、気に入ったアーティストや作品について調べておく。（七字）

授業前に提示した戯曲、参考書などはそれぞれが読んでおくこと。また、劇場やインターネット、DVDなどで積極的に舞台表現に触れること。時間外学習の目安は2時間程度とする。（長谷川）

【事後学修】

日頃から、美術館や博物館、ギャラリーなどを活用して、美術に触れる機会をつくる。（七字）

授業中に配布した資料等を読み返し、整理保存しておくこと。また、授業で紹介した映像資料などは積極的に鑑賞すること。時間外学習の目安は１時間程度とする。（長谷川）

評価方法

授業への取り組み（40%）、ワークシートの提出（30%）、実技課題・授業内レポートの提出（30%）（七字・長谷川）

アクティブラーニング

グループワーク　グループディスカッション　映像活用学習　ミニッツペーパー

フィードバック

各課題については、全体で鑑賞会及び講評会を行います。（七字）
授業内レポートについて、全体でのフィードバックを行う。（長谷川）
ミニッツペーパーについて、提出された質問を全体で講評する。（長谷川）

実務経験

○　高等学校（美術科）や専門学校（ビジュアルデザイン科）、美術館（美術教育普及課）での実務経験を活かし、さまざまなアプローチにより「美術の楽しみ方」を提案する。（七字）
公共劇場での作劇、演出、俳優、制作等の経験を踏まえ、舞台芸術の歴史、制作過程、ジャンル毎の解説を具体的に解説する。（長谷川）

教科書

なし（七字・長谷川）

参考書

適時紹介する（七字・長谷川）

備考

4〜5名のグループでディスカッション及び作業を行います。技法体験をする回は、材料や用具を忘れずに持参してください。（七字）

授業終わりにミニッツペーパー（コメント、質問等）を回収する。質問事項には次時間に回答する。時間内レポートはノートの持ち込みを可とするので各自ノートを整理しておくこと。（長谷川）

ナンバリング	21221		科目名	こども未来学

担当教員	佐藤/助川/安藤/国府田/馬立/加茂川/白土/八木澤/小口/森井

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

子ども一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を育成していくためには、まず、子どもを取り巻く現状や課題を理解することが大切です。授業では、多様な視点から子供たちの生き方に影響するトピックを取り上げ考察することを通して、子どもの文化を理解することや子どもとどのように関わっていけばよいかなど、広く乳幼児期から学童期、思春期という連続した流れの中で、社会の要請に応えることのできる質の高い保育者養成をねらいとしています。

到達目標

(1)子どもを取り巻く環境を、多様な視点から捉え、考察することを通して、未来に生きる子ども像をイメージできます。
(2)子どもの未来と幸せを考えられる保育者像を考察するとともに、自ら目指す姿を明らかにすることができます。
(3)現代の保育を取り巻く課題を考え、解決するための方策について考えることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　こども未来学へようこそ～オリエンテーション～

02　リトミックって

03　ＩＣＴ環境について考える

04　子どもの視点からみたSDGs

05　これからの親子関係に求められるもの

06　子どもとダンス・身体表現

07　社会環境と子どもの問題

08　子どもの遊びの変遷

09　子どもと社会教育

10　発達障害ってなぁに

11　子育て支援について

12　子どもと絵本

13　保育と教育（実際の現場から）

14　里親について

15　あかちゃんと音楽

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し、課題内容に関する情報を収集しておくようにしてください。（２時間） 【事後学修】 自らの興味関心に基づいて、授業内容に関し調べたりまとめたりしてください。（２時間）
評価方法	(1)授業への取り組み(50%)　(2)レポート等の提出物(50%) 課題レポートの評価基準 １．決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%） ２．求められている課題に内容が即しているか（20%） ３．指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%） ４．課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）
アクティブラーニング	グループワーク、グループディスカッション、映像活用学習
フィードバック	・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。
実務経験	
教科書	なし（授業で使用する資料については、すべて配布します）
参考書	授業の中で紹介します。
備考	子どもを取り巻く環境を、多様な視点から捉えるために、様々な資料を準備したり、ゲストを迎えたり、体験したりするなど授業形態を工夫していきたいと考えています。

ナンバリング	33200		科目名	ウィンドアンサンブル入門

担当教員	八木澤 香菜

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☑ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

⑴合奏（吹奏楽、アンサンブル）を通して、他者と一緒に演奏する楽しさを味わい、同時に表現力やコミュニケーション力を身につけます。
⑵音楽の基礎知識を学ぶことで、管楽器、打楽器の演奏方法を具体的に身につけることができます。
⑶様々な作曲家の音楽を鑑賞し、各時代の音楽様式や作曲家の特徴を学びます。

到達目標

⑴学生同士で考え、表現し合うことを通してコミュニケーション力を養うことができます。
⑵音楽の基礎知識から、楽器の演奏法を身につけることができます。
⑶資料を用いて、音楽の歴史や作曲家の特徴について説明することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　⑴授業計画について　⑵音楽の基礎知識
02　音楽絵本　⑴絵本の決定　⑵パートの決定
03　音楽絵本　⑴セクション練習　⑵パート練習
04　音楽絵本　⑴全体練習
05　音楽絵本　⑴発表「なでしこコンサート」
06　音楽絵本　⑴振り返り（グループディスカッション）　⑵音楽の歴史・鑑賞
07　アンサンブル　⑴グループの決定　⑵楽曲の決定
08　アンサンブル　⑴楽曲分析　⑵パート練習
09　アンサンブル　⑴ハーモニー練習
10　アンサンブル　⑴発表「なでしこコンサート」
11　アンサンブル　⑴振り返り（グループディスカッション）　⑵様々な音楽様式
12　吹奏楽　⑴ロングトーン　⑵スケール　⑶全体合奏
13　吹奏楽　⑴セクション練習　⑵パート練習

14　吹奏楽　(1)全体練習

15　吹奏楽　(1)発表「なでしこコンサート」

授業時間外の学修	【事前学修】 授業で配布した楽譜によく目を通して練習しておいてください。譜面上のわからない音楽用語は辞書で調べておいてください。（事前学習の目安は約1時間とする） 【事後学修】 授業内で指摘された箇所が改善されるようによく練習してください。授業内での演奏について友達同士でどのように演奏すべきか話し合ってください。（事後学習の目安は約1時間とする）
評価方法	授業への取り組み50% 発表30% 提出物20%
アクティブラーニング	グループディスカッション
フィードバック	リアクションペーパーは、コメントをつけて返却します。 演奏は、発表時に助言指導します。
実務経験	○　吹奏楽部顧問の経験、器楽に関する専門知識を生かし、様々な音楽様式、基礎知識、演奏法について具体例を踏まえた講義を行います。
教科書	なし
参考書	テーマに応じて参考文献、参考資料を配布します。
備考	個人楽器を所有している人は、持参してください。マウスピース、リード、楽器のメンテナンス用具は個人で用意してください。（学校の楽器を使用する場合も同様） ※年間を通じて15回実施

ナンバリング	31211	31200	科目名	日本国憲法

担当教員	小口 恵巳子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☑ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

学校におけるいじめや体罰問題、実親による児童虐待などが、連日のように社会問題化し報道されています。また、犯罪の低年齢化・短絡化の中で加害者としての未成年も注目されています。子どもたちをめぐるこのような諸問題を、「子どもの人権」をキーワードに、特に教育現場と関連付けながら 検討していくことを通して、我が国の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理解を深めます。そのうえで、各章の課題に関して、議論し合いながら、憲法が身近なものとして受け止められるようにします。

到達目標

次の２点を身につけることを通して、法的なものの考え方を習得するとともに、なぜ憲法を学ぶ必要があるのか、主権者としてどのように行動すべきかを主体的に考えることができるようになります。

- 近代憲法の歴史と基本原理を理解する。
- 人権の保障とその限界について理解する。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス　憲法の意味について

02　憲法の成立と特徴、基本原理について

03　人として生まれながらにもちうる権利

04　立憲主義の歴史：個人の尊重と幸せに生きる権利

05　法の下の平等

06　思想・良心の自由

07　信教の自由

08　自由に学ぶ権利

09　自由に表現する権利

10　不安なく生きる権利

11　教育を受ける権利と義務

12　労働者の権利

13　国を治める仕組み（1）明治憲法

14　国を治める仕組み（2）現行憲法

15　憲法的な人権尊重についてまとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 事前に教科書の該当範囲を一読し、疑問点をまとめる。人権問題にかかわる新聞記事を切り抜きノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業内容をノートにまとめなおす。授業中に理解できなかった語句や興味を持った事柄について調べる。学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	授業への取り組み（40%）、定期試験（60%）
アクティブラーニング	映像活用学習　ケースメソッド
フィードバック	提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。
実務経験	○　検察庁で勤務していた経験を活かし、人権の保障とその限界について、基本的な法的知識を身に着けられるように授業を行う。
教科書	『保育と日本国憲法』（株）みらい
参考書	なし
備考	人権意識を身に着けるために、課題について積極的に周囲と議論しあう、主体的な学習態度 （自分の頭で考える）を求めます。 筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	32121		科目名	女性学

担当教員	小林和子/小口恵巳子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

男女が互いに助け合って明るい日本の未来を築くためには、現代における男女の関係を見つめ直し、それぞれが自立した人として互いを尊重し高め合うことがまず必要です。そして地域社会の中で女性が自分らしい生き方を見つけることそのために、まず、ジェンダー、フェミニズムなどの用語の意味や、日本における女性史の概略を学び、女性を取り巻く国際的な問題なども視野にいれて、メディアにおける女性問題を考えていきます。現代日本社会のジェンダー問題をメディアの中に学生たち自身が発見し、グループに分かれてディスカッションを行い、考察の共有と深化を図ります。後半は、ジェンダーの視点から、歴史的事象を考察することを通して、今日、「当たり前」として広まっている「常識」を疑う眼差しを持てるにすることを目指します。

到達目標

(1)視覚教材を通じて、女性としての生き方の問題を楽しく学んでいくことができます。(2)社会人としての責任感を持ち、豊かな人間性を育み、他者と協和できる力を養うことができます。(3)国際的にも視野を広げ、女性としての理想の生き方や現代社会の中でのこれからの女性の役割について考えることができます。(4)LGBTQなど多様化する性に対しての正しい認識を持ち、基本的な女性学用語の意味や女性史の概略を理解し、現代社会における女性問題を自ら考える基礎力を養うことができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 (1)ガイダンス（2）今までの生活の中で女性として生まれて得したと感じたこと、損したと感じたことなどについてのアンケート調査(3)高校までに学んだ女性学について確認。

02 大成学園の建学精神と女性学ー女性保育者のパイオニアであり、大成女学校の校長として女子教育に大きな足跡を残した豊田ふゆ氏のことについて学ぶ。

03 映画「赤毛のアン」の鑑賞―男女差別のあった時代に孤児であり自分の容姿にコンプレックスを持つ少女アンが周囲の人たちの愛情の中で成長する姿から、本当の家族とは何か、真の友情とは何か、互いが支えあえる真の恋とは何か等を考える。

04 女性の幸せは何なのかーシンデレラは本当に幸せなのか？シンデレラ・コンプレックス（白馬の騎士願望）について考える。（映画「プリティウーマン」等を参考に）

05 キャリアウーマンと専業主婦、どちらが自分に合っているのか、女性の結婚、妊娠、出産適齢期について学ぶ。（映画「ブリジット・ジョーンズの日記」等を参考に）

06　子育てとキャリアの両立、保育園の必要性、男性の育児休暇取得の問題、離婚率の増加と親権、母親の幸せと子供の幸せ等について考える（映画「クレイマー、クレイマー」等を参考に）

07　基本的な女性史を学び、日本文学の中の女性像の変化を知る〜あなたは紫式部派、それとも清少納言派？〜

08　漫画やアニメ、テレビドラマやCM,女性アイドルの変遷などを考察し、メディアの中の女性像の変化を学生自らが検証する。

09　人権宣言と女権宣言
フランス人権宣言と同時期に男女平等を訴えるために、女権宣言が出された。その意味を、フェミニズムの第一波と第二波も含め学ぶ。

10　近代家族の成立と家族規範
19世紀、文明社会の指標の一つとされた「一夫一婦」とその実子とからなる家族（近代家族）が、その後の女性の生き方に何をもたらしたのかについて学ぶ。

11　同性愛文化の日本と同性愛禁忌の西欧
かつて日本は同性愛文化が花開いていた。いつ・いかなる理由で今日のような同性愛禁忌の西欧的社会が構築されてしまったのかを通して他者を認めることの重要性について考える。

12　近代教育制度の成立
明治期に確立された近代教育制度とはどのような目的をもったものであったのか。日本初の海外留学生として渡米した津田梅子の生き方を通して、女性が学ぶことの意義と重要性を学ぶ。

13　明治民法の中の女性
「家」制度における女性の立場を学び、特に家・家名の継承が現代社会においても深く影響を及ぼしていることを「夫婦別姓問題」を通して、これからの女性の生き方を考える。

14　婦人参政権の成立
市川房江がなぜ婦選運動を展開したのか、その背景要因を学ぶことを通して、今日、男女の別なくが政治的権利が保障されていることの意義を考える。

15　まとめと確認テスト

授業時間外の学修	【事前学修】 新聞やインターネットやテレビなどのメディアの中に、女性学的問題に関連するニュースや話題を日頃からチェックして、ノートにまとめておきます。2時間を目安とします。 【事後学修】 授業内で配布した新聞記事やプリントなどについて復習します。また授業内で見た映画やディスカッション内容についてまとめます。ジェンダーについての現代社会のメディアの中で問題点を発見します。最低2時間を必要とします。
評価方法	授業への取り組み(40%)、課題レポート（30%）、確認テスト（30%） 授業への取り組み：ディスカッションやリアクションペーパーの内容について。課題レポート：女性学テーマを自らの身近なメディアにきちんと発見できているかどうか。
アクティブラーニング	グループディスカッション、リアクションペーパー
フィードバック	リアクションペーパーに対して個別のフィードバックを行います。ジェンダーなどについての確認テストを行いフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	なし（プリントを配布します）
参考書	なし（授業中に適宜紹介します）
備考	グループディスカッションを取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。他のメンバーの意見を聴き、自分の考えをしっかり発言することを求めます。

ナンバリング	31200		科目名	女性と社会生活

担当教員	辻 京子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

社会人として職業上必要となる基礎力を、学習を通して身に付ける。ねらいは次の2点。
(1)基本的な社会の常識を理解し、活用できる。
(2)社会生活における多様な考え方やスキルを理解し、活用できる。

到達目標

(1)社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
(2)行動には意味づけがあることを理解することにより、行動をより深いものにする。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション・「あなたにとって仕事とは」
02 社会人基礎力と仕事の進め方
03 第一印象と基本動作
04 話し方と聞き方
05 敬語・接遇用語
06 電話応対
07 ダイバーシティとコミュニケーション
08 冠婚葬祭の交際知識（慶事）
09 冠婚葬祭の交際知識（弔事）
10 来客応対の基本と心得
11 ホスピタリティー （おもてなしの心）
12 ビジネス文書の形式と演習
13 自身の強みと弱み
14 キャリアプラン

15　女性と社会と私の未来

授業時間外の学修	【事前学修】 (1)予習として次回の授業内容を確認する(毎回1時間) (2)気になるニュースを書く(毎回1時間) (3)レポート課題(3回、５時間×3) 【事後学修】 (1)授業内で理解できなかった事項の復習(毎回1時間)
評価方法	定期試験は実施しない。 授業への積極的参加(50%)、グループへの貢献度(20%)、レポート(30%)を総合的に評価する。 授業時間数1/3以上の欠席者は評価の対象とならない。 レポートの評価基準 1.字数・行数等の形式、提出期限を守ることができる(10%) 2.誤字脱字がなく、記述表現が適切である(10%) 3.内容が適切である(30%) 4.論理的である(20%) 5.深い考察である(30%)
アクティブラーニング	グループ・ワーク、ペア・ワーク
フィードバック	レポートについて、全体または個別講評でフィードバック
実務経験	○　企業での秘書業務経験を活かし、社会生活に必要なマナーについて、講義を行う。
教科書	『新ビジネスとオフィスワーク』水原道子監修　宮田篤編著　樹村房
参考書	なし
備考	

ナンバリング	23121		科目名	キャリア形成ゼミI

担当教員	佐藤/助川/国府田/馬立/加茂川/安藤/小口/森井/白土

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要　学生生活を円滑に進めるとともに、社会で必要とされる社会人としての基礎力を養います。大学で学ぶ目的と内容、及びカリキュラムの確認を行います。またグループ活動等を通してコミュニケーション能力を養います。

到達目標　(1)保育に関する様々な講話から望ましい保育者像を模索するとともに、社会人として必要な教養を修得することができます。(2)保育者を志望する意欲と学習動機を継続させ、なりたい保育者像を描くことができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション（授業の概要と見通し）

02　個人面談①

03　交通安全セミナー

04　学科別研修会に向けての話合い

05　学科別研修会事前学修

06　学科別研修会

07　子宮頸がん予防知識講習会

08　学科別研修会の振り返り

09　附属園における一日体験学習に向けて話合い

10　防火避難訓練

11　附属園における一日体験学習

12　キャリア講演会（公立保育所について）

13　履修カルテについて

14　個人面談②

15　教育実習に向けて

16　映画鑑賞会①

17　撫子祭に向けての話合い

18　撫子祭準備

19　撫子祭前夕祭

20　映画鑑賞会②

21　実習報告会

22　こども学科発表会に向けて（役割分担）

23　こども学科発表会に向けて（2年生との打合せ）

24　こども学科発表会に向けて（合唱練習）

25　こども学科発表会リハーサル

26　こども学科発表会

27　就職への道のり

28　次年度のゼミナール紹介

29　次年度のゼミナール決定

30　１年間の振り返り・まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。（約30分） 【事後学修】 自分の将来について考え、必要な情報を収集するなど積極的に進めてください。（約30分）
評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート等の提出物(50%) レポートの評価基準 １．誤字脱字がなく、文章表現が適切でわかりやすいか（10%） ２．求められている課題に内容が即しているか（20%） ３．指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%） ４．課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ライティング・ディスカッション
フィードバック	・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。
実務経験	
教科書	なし
参考書	なし
備考	グループや他者との関わり等を通して、社会人としての基礎的なコミュニケーションやキャリアアップ等を図っていきます。

ナンバリング	31200		科目名	生活と環境

担当教員	佐藤 隆

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☑ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

科学技術の発展により、私たちの生活は物質的に豊かで便利になりました。しかし，資源やエネルギーの膨大な消費とともに排出される二酸化炭素等の温室効果ガスによる温暖化、化学物質による環境汚染などの問題が深刻化しています。授業では，環境についての基礎的事項から出発して地球全体の環境にかかわる諸現象を幅広く探究します。またワークショップなどにより環境保全や持続可能な社会づくりについて具体的な手立てを意見交換し，社会における市民として何をすべきか，考えを深め広げます。

到達目標

身近なところから地球全体に至るまで環境問題に目を向け、原因や現状について理解することができます。未来を担う人材として、環境にかかわる問題を解決する方法について考える力を身につけることができます。世界的な視野に立って，持続可能な社会づくりのため，どのように生活していくべきか，自分たちにできることは何かを考え，実践する力を身に付けることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　環境とは〜オリエンテーション〜

02　自然環境はどのようにつくられたか

03　おもな公害を調べよう

04　食と環境

05　水と環境

06　衣・住と環境

07　人間と野生生物

08　「ごみ問題」を考える

09　今話題の環境用語を調べよう

10　地球規模の環境問題を調べよう

11　地球規模の環境問題（発表）

12　日本のエネルギー事情

13　自然災害

14　住みよい街とは

15　持続可能な社会をめざして

授業時間外の学修	【事前学修】 日本や世界の環境に関する現状や課題について関心をもち、新聞やインターネット等を活用して調べてください。自分が生活する身近な地域の状況に関心を持ち、自分にできることを考えましょう。(2時間) 【事後学修】 授業で学んだことをさらに広く深く調べてください。学習したことを自分の生活で生かし、問題の解決のために自分にできることを実践し、効果を考察してください。(2時間)
評価方法	授業への取り組み30%，提出物・課題レポート50%，定期試験20%
アクティブラーニング	グループディスカッション　ワークショップによる思考の深化　自己の考えや収集した情報の共有化
フィードバック	提出したレポートに教員のコメントを記入して返却します。 質問や疑問について個別に対応し、必要に応じて全体にフィードバックします。
実務経験	○　小学校・中学校教員（理科）として勤務した実務経験を生かし，環境問題についての問題解決に向けた実践力を身に付けられるような授業を行う。
教科書	
参考書	よくわかる環境科学　鈴木孝弘著　オーム社　ISBN978-4-274-22320-4 C3050 生活と環境　藤代敏幸　東京教学社　ISBN978-4-8082-5012-6
備考	意見を交換したりグループの意見をまとめたり発表したりします。自分の考えをしっかり持ち、積極的に発表してください。

ナンバリング	32200		科目名	身体のしくみと働き
担当教員	安嶋 隆			

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要　人の体のしくみの解明までにはどのような歴史があるのかを学び、人体の素晴らしさを再認識します。また、それぞれの器官がどのようにつながり、どのような意味を持っているのかを考えます。さらに最先端の医療分野での課題や問題点を取り上げて、日々の生活に反映できる健康維持の実践例を議論します。

到達目標　(1)ヒトの体については長い研究の歴史があることを説明できます。(2)テキストや補助教材(模型等)を用いて、各器官のしくみと働きを説明できます。(3) 各器官から出るホルモンや神経の相互作用を説明できます。(4)医療分野における課題や問題点を調べ、デイスカッションすることにより、 理解を深めることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　授業の目的と流れを知る　(1)生きているということ（恒常性，自然治癒，免疫，再生，細胞のしくみ）(2)体の器官の名称と働きについて

02　人体解剖の歴史　(1)人体の解剖が人の研究にどのような影響を与えたか(2)日本の人体解剖の歴史

03　血液を循環させるしくみ　(1)血液循環のシステムと免疫システム(2)免疫の種類(３)血管系と心臓

04　呼吸をするしくみ　(1)肺でのガス交換のしくみ(2)ブタの肺の実物提示

05　脳の進化と働き　(1)記憶のメカニズム　(2)脳の進化　(3)小テスト

06　食べ物を消化し吸収するしくみ　(1)ブタの胃の解剖(2)胃、神経、ホルモンの相互作用(3)現代病

07　大腸の働き　(1)大腸とホルモン(2)腸内細菌の最新情報

08　腎臓の働き　(1)ブタの腎臓の解剖(2)尿が作られるしくみと尿検査でわかること(3)現代人の食生活の問題点

09　肝臓の働き　(1)肝臓の驚くべき機能(2)人工肝臓は作れるか(3)肝臓とホルモン

10　目の構造と働き　(1)ブタの目の解剖(2)ヒトとブタの目の比較(3)目の病気と治療

11　神経の働き　(1)神経の種類と調節作用(2)神経症の原因(3)小テスト

12　心臓の働きと作用　(1) ブタの心臓の解剖(2)心臓とホルモンの調節作用(2)心臓移植の歴史

13　ヒトの遺伝　(1)ヒト遺伝の研究の歴史(2)ヒトの遺伝のしくみ　課題提出

14　ヒトの発生　(1)ヒトの発生のしくみ(2)遺伝子治療の課題

15　最先端の医療　(1)iPS細胞、ヒトゲノム、ＤＮＡ鑑定(2)ヒトの体の不思議

授業時間外の学修	【事前学修】 ヒトの病気や健康に関する内容をＷｅｂや新聞記事を利用してノートにまとめる。日常の生活で健康や病気について気になったことや疑問点をノートに記入しておき、友人と情報の共有をする。ヒトの体に関する図書を積極的に利用する。先端医療の話題や用語をまとめておく。(約２時間) 【事後学修】 授業で学修したことで疑問点が解決できたなら、その内容を授業ノートにまとめる。授業の内容に関連した新聞やWebの記事に対して各自の意見をまとめる。(約２時間)
評価方法	定期試験50％、課題提出20％、小テスト2回20％、ノート提出10％
アクティブラーニング	
フィードバック	課題提出については、個別にコメントします。また、どのような文献を参考にしたのかをチェックして、文献調査の方法を記入して返却します。
実務経験	○　高等学校での生物担当の経験を生かし、食生活や健康管理には人体の働きやしくみを理解することが重要であることを強調する。
教科書	なし
参考書	人体のしくみと病気がわかる事典　奈良信雄監修　西東社
備考	小テストについて、コメントを加えてフィードバックを行います。ノート提出について、授業内容の疑問点や質問に答えます。

ナンバリング	21211		科目名	マルチメディア演習
担当教員	小松崎 浩司			

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☑ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☑ 選択（上秘メ） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☑ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☑ 選択（上秘）

授業概要

情報リテラシー、コンピュータリテラシーの振り返りと本学の情報システムの環境について演習を通じて学びます。また、クラウド環境と個人所有のパーソナルコンピュータ（以下PC）、タブレットコンピュータ（以下タブレット）、スマートフォン（以下スマホ）（以下BYOD）を利活用して理解を深めていきます。また、わからないことがあったらすぐに調べる癖をつけるため、冊子体の辞書を使えるスキルを付けます。

到達目標

(1)本学の情報システム環境を理解できます。
(2)情報リテラシーが身につきます。
(3)コンピュータリテラシーが身につきます。
(4)BYODによって、自己所有の機器の操作法が身につきます。
(5)クラウドコンピューティングの基礎が身につきます。
(6)授業時や社会人となった際に求められるPCの操作法が身につきます。
(7)わからないことがあったら自らすぐに調べて、より正確な知識を身に付けていきます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　この科目の進め方
・Web版Microsoft 365へのサインイン。概要紹介。
・スマートフォンアプリケーションの初期設定（Microsoft 365、Outlook, Teams, SharePoint, OneNote）

02　Microsoft 365に触れる(1)
・SharePoint
・Outlook
・Teams

03　Microsoft 365に触れる(2)
・Word
・PowerPoint
・Excel

04　資料をスマートフォンで撮影して、保存する
・Lens機能

アンケートを取ってみる
・Forms

05　コラボレーションツールを使いこなせるようになる
・Teams

06　ワードプロセッサを学ぶ(1)
・Word（初歩編）

07　ワードプロセッサを学ぶ(2)
・Word（基本編）

08　スマートフォン・タブレットで録音する
（レコーダーアプリを使った録音）

09　音楽制作アプリを学ぶ(1)
Zenbeatsに触れてみる

10　音楽制作アプリを学ぶ(2)
Zenbeatsに音楽を取り込む

11　メディア作成統合クラウドを学ぶ(1)
Adobe Expressに触れてみる(1)

12　メディア作成統合クラウドを学ぶ(2)
Adobe Expressに触れてみる(2)

13　メディア作成統合クラウドを学ぶ(3)
Adobe Expressに触れてみる(3)

14　総合演習

15　最終発表

授業時間外の学修	【事前学修】 PCの操作法やしくみは実際に触れて、使ってみることで徐々に理解できます。授業時間外もコンピュータ演習室や図書館、個人所有のPC、タブレット、スマホに直接触れる時間を増やしてください。また、次回授業で使用する、アプリケーションに関して、スマホ等に事前インストールを依頼することがあります。 【事後学修】 授業時間内に適宜課題を出します。課題を中心に学修して理解を深めてください。 本科目を通して復習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。
評価方法	課題(60%)、最終課題(40%) 提出された課題で成績評価します。 よって未提出課題があると単位認定できません。 なお、課題の出来も大切ですが、一人一人スキルやセンスはバラバラです。 どれだけ成長したか、どれだけ努力したかを評価します。
アクティブラーニング	・ICTの活用 ・BYODによる学内および学外（自宅、登下校途中）でのシームレスな学習
フィードバック	Microsoft 365の共有機能を活用することによって、履修者毎の学習進捗に沿った助言を行っていきます。
実務経験	○　民間企業でシステムエンジニアとして実務経験のある教員が、履修者に対して学生生活において求められる情報リテラシー、コンピュータリテラシーのみにとどまらず、卒業後企業におけるエンドユーザとしてICTを利活用できるスキルを身につけさせます。
教科書	特になし
参考書	都度授業内で紹介していきます。

備考	タブレット(iPad / Android)で受講する人はキーボードをご用意ください。（2,000円〜20,000円程度）ソフトウェアキーボードでも対応可能ですが、授業はハードウェアキーボード前提で進めていきます。 ※授業外でもレポート作成等で使用していきますのでキーボードを揃えることを強く求めます。 ご自身所有のスマートフォンやノートPC、タブレットを使用します。自宅で充電してきてください。 ※スマートフォンおよびタブレットまたはノートPCの短大無線LAN接続申請をお願いします。 https://bit.ly/iwjcslan

ナンバリング	33231		科目名	健康とスポーツ

担当教員	赤堀 文也

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☒ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☑ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要　基礎的なエクササイズ(ストレッチ、トレーニング、ほぐし)を通して、その経験と知識を蓄え、生涯にわたって自身のカラダの健康保持・増進の活動を行えるようにします。
また、様々なスポーツを通して体力向上と仲間との協力やコミュニケーション能力向上を図ることを目的とします。

到達目標　主体的な身体活動を通して心身の健康についての理解を深め、生涯にわたって健康的で豊かな生活を実践できる能力や態度を身につけることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　(1)オリエンテーション　(2)履修種目の決定　(3)自己紹介
02　(1)講義「自身のライフスタイル」 (2)自身の健康状態の把握①
03　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ドッヂボール)
04　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(バスケットボール)
05　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(バレーボール)
06　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(バドミントン、卓球)
07　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(テニス、屋外スポーツ)
08　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)
09　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)
10　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)
11　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)
12　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)
13　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)
14　(1)自身の健康状態の把握② (2)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし

15　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)休暇中の運動実施計画

16　(1)自身の体の状態の把握③ (2)休暇中の運動実施報告

17　(1)講義「人との出会いと環境が自分に与える影響」 (2)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし

18　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ドッヂボール)

19　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

20　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(バスケットボール)

21　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

22　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(バレーボール)

23　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

24　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ダンス)

25　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

26　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

27　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

28　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

29　(1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(自由選択種目)

30　(1)自身の体の状態の把握④ (2)レポート

授業時間外の学修	【事前学修】 経験したことのないスポーツやエクササイズについては、授業前に特徴等を調べておいてください。 【事後学修】 授業で扱った身体活動を継続し、生涯にわたって実践知を深めることが望ましいです。心と身体の健康を保つ、あるいは向上させていくように日々の習慣にしてください。事前事後学習の目安は合計約2時間程度とします。
評価方法	授業への取り組み(60%)、体操服・ゼッケン・体育館シューズ等の身だしなみ(10%)、授業シートおよびレポート課題(30%)等によって総合的に評価します。 授業シートおよびレポートの評価基準　(1)字数や提出期限を守ることができている(20%) (2)誤字脱字がなく、表現が適切である(20%) (3)内容がテーマに則して適切である(30%) (4)考察が充分である(30%)
アクティブラーニング	ペア・グループワーク
フィードバック	毎回提出する授業シートについては、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	なし
参考書	テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。
備考	この授業では運動に適した動きやすい服装を着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。実技、ペア・グループワーク等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。 ※自由選択種目 フィットネスおよびエクササイズ(骨盤矯正エクササイズ、フラフープ、バランスボール、バランスボード、ストレッチポール、シェイプアップローラー、ウォーキング、ジョギング等) スポーツ(ドッヂボール、バスケットボール、バレーボール、フットサル、バドミントン、卓球、ソフトバレーボール、硬式テニス、軟式テニス、キャッチボール、フリスビー、輪投げ、グランドゴルフ等) その他(リンパマッサージ、大縄跳び、雑巾リレー、ボール運びリレー、うつ伏せダッシュ、ツイスター等)

ナンバリング	31200		科目名	ダンス入門

担当教員	国府田 はるか

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

様々なジャンルの基本的なダンステクニックを学び、リズムに合わせて踊ることの楽しさを体感するとともに、からだをまるごと使った自由な即興表現を通して、創造的で個性豊かな身体表現を実践します。また、グループ創作を通じて表現の多様性を認め、他者の表現を捉え受け入れ共感する姿勢を養います。この授業では、ペア・グループワーク、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。

到達目標

からだを通して思いのままに伸び伸びと気持ちよく表現することのできる「しなやかなからだ」を修得することができます。また、身体表現の奥深さを追求する中で、他者や環境に対して開かれた「柔らかなからだ」を修得することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 (1)オリエンテーション (2)運動経験アンケート (3)ダンス鑑賞

02 (1)ストレッチ (2)ダンスの基本姿勢 (3)筋力トレーニング

03 (1)ストレッチ (2)ヨガ (3)マッサージによるコンディショニング

04 (1)ストレッチ (2)ピラティス (3)エアロビクス

05 (1)ストレッチ (2)ベリーダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)

06 (1)ストレッチ (2)フラダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)

07 (1)ストレッチ (2)バレエの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)

08 (1)ストレッチ (2)ジャズダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)

09 (1)ストレッチ (2)モダンダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)

10 (1)ストレッチ (2)ヒップホップダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)

11 (1)ストレッチ (2)モダンダンス・コンテンポラリーダンスの基本テクニック (3)身体表現創作とは (4)即興表現

12 (1)ストレッチ (2)グループ創作「小道具を用いて」(3)作品発表

13　(1)ストレッチ (2) グループ創作「自然をモチーフとして」 (3)作品発表

14　(1)ストレッチ (2)グループ創作「他者との繋がり」 (3)作品発表

15　(1)ダンスの意義　(2)ディスカッション　(3)振り返りレポート

授業時間外の学修	【事前学修】 経験したことのないダンスやエクササイズについては、授業前に成り立ちや特徴等を調べておいてください。 【事後学修】 授業で扱った身体活動を継続し、実践知を深めることが望ましいです。心身のコンディションに関心を持ち、向上させていくための主体的な身体活動を日々実践するように心がけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。事前事後学習の目安は合計約2時間程度とします。
評価方法	授業への取り組み(40%)、授業シートおよびレポート(30%)、実技発表(30%)等によって総合的に評価します。 授業シート・レポートの評価基準　(1)字数や提出期限を守ることができている (20%)　(2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%)　(3)内容がテーマに即して適切である(30%)　(4)考察が充分である(30%) 実技発表の評価基準　(1)笑顔で踊ることを楽しんでいるか (20%)　(2)全身を大きく使って踊っているか (20%)　(3)生き生きと世界観を表現しているか (20%)　(4)観客に伝えようという意欲があるか (20%)　(5)チームで協力して練習を行っていたか (20%)
アクティブラーニング	ペア・グループワーク、ディスカッション、クリエイティブ・セッション
フィードバック	毎回提出する授業シートや実技発表については、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	○　ダンサー・振付家として活動する教員の実務経験を活かし、ダンスや作品創作に関する実践的な授業を行います。
教科書	なし
参考書	テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。
備考	この授業では運動に適した動きやすい服装を着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。ペア・グループワーク、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の表現を受け入れ共感するとともに、共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	23131		科目名	英語I
担当教員	内桶 真二			

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☑ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要　基礎的な英語運用能力（読む、書く、聞く）を養うことを目的とし、(1)教科書で基本事項を確認し、(2)パソコンを利用して教材管理システムに登録されている練習問題を用いクイズ形式で理解を確かなものとし、(3)学外のオンラインの練習問題に取り組みながら（復習テスト）、学習内容を定着させます。教科書１単元が6ページで、1単元を2時間の授業、1時間あたり3ページの割合ですすめていきます。1時間目が基本事項の確認で、2時間目がその発展、3時間目がまとめ・確認と応用となります。

到達目標　(1)英語と日本語の違いに注意しながら、英語の基本的事項を身につけ、英語の基本的な表現が活用できる。(2)外国語の学習を通じて、異なる文化の存在を意識するとともに、外国語の学習に辞書を活用することができる。(3)外国語の学習を通じて、日本語・日本文化あるいは自分自身を見つめ直し、社会に貢献する礎を身につける。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　導入　授業の進め方、システムの利用法、オンライン（リンガ・ポルタ）学習登録、問題練習

02　be動詞　出迎え・紹介の表現　基礎

03　be動詞　出迎え・紹介の表現　発展

04　be動詞のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

05　一般動詞　現在　疑問文・否定文　尋ねる・説明する表現　基礎

06　一般動詞　現在　疑問文・否定文　尋ねる・説明する表現　発展

07　一般動詞（現在）のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

08　一般動詞　過去　疑問文・否定文　謝罪する・意向を尋ねる表現　基礎

09　一般動詞　過去　疑問文・否定文　謝罪する・意向を尋ねる表現　発展・応用

10　一般動詞（過去）のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

11　wh疑問文、さまざまな疑問詞　基礎

12　wh疑問文、さまざまな疑問詞　発展

13　wh疑問文のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

14　前期の総復習問題50問（２回）

15　前期の総復習問題50問（２回）
（計、50問を４回）

16　前期の復習問題、後期の進め方の確認

17　助動詞　依頼する表現　基礎

18　助動詞　依頼する表現　発展

19　助動詞のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

20　文の種類と命令文・感嘆文　基礎

21　文の種類と命令文・感嘆文　発展

22　文の種類のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

23　進行形（現在・過去）　相談・励ましの表現　基礎

24　進行形（現在・過去）　相談・励ましの表現　発展

25　進行形のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

26　未来を表す表現　聞き返す・確認する表現　基礎

27　未来を表す表現　聞き返す・確認する表現　発展

28　未来を表す表現のまとめ・オンライン学習（確認と応用）

29　後期の総復習問題50問（２回）

30　後期の総復習問題50問（２回）
（計、50問を４回）

授業時間外の学修	【事前学修】 知らない単語や語句を調べるなどの事前学習が１時間必要となります。 【事後学修】 空き時間などを利用して１時間程度練習問題を繰り返し学ぶことが学習内容を定着させる早道であり、必要です。教科書関連の練習問題とオンラインの練習問題には自宅のコンピュータやスマートフォン・タブレット端末などからもアクセスできます。
評価方法	練習問題の成果(取り組んだ回数と正解率)を含む授業への取り組み(60％)、定期試験(40%)
アクティブラーニング	クイズ形式、復習テスト
フィードバック	教材管理システムが回答に応じて即時フィードバックを行う。
実務経験	
教科書	Let’s Read Aloud & Learn English!（音読で始める基礎英語)角山・Capper 成美堂
参考書	授業内で指示します。主にネット上の参考資料を活用します。
備考	毎回、まとめや復習の練習問題を課し、自動採点または教員が採点しコメントをつけるなどし、その場で学習内容を確認しながら進めていきます。 イヤフォン (3.5ミリ　ミニ（プラグ）：一般にはステレオミニと呼ばれるもの、またはブルートゥース接続のもの)を持参すること。 各自タブレット端末などを持参して受講することも可能です。

ナンバリング	22231		科目名	教育原理

担当教員	助川 公継

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

教育思想や制度などについて歴史的な変遷を学ぶことは、私たちが今まで受けてきた教育とこれからの方向性を考察する上で大きな手がかりとなります。教育の意義や目的及び教育制度、実践の基礎理論や学校を取り巻く地域との関連、及び学校安全などを学ぶことを通して、「教育とは何か」について多面的な見方や考え方を養い、自分なりに再構築できるよう学習していきます。また、教育・保育者としての望ましい在り方や教育観などについて、意見交換をしながら考えていきます。

到達目標

(1)教育の基本的概念について、教育の歴史や思想、制度等から分析し、教育及び学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解することができます。
(2)学校や教育行政機関の目的とその実現について、学校経営や学級経営の視点から関連づけることができます。
(3)社会変化に伴う学校と地域との連携や学校の安全に関する基礎的な事柄に関して説明することができます。常日頃から教育や保育に関するニュース等に関心をもったり、調べたりすることを心がけてください。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 ガイダンス、教育の定義と意義（「教育とは」、「保育とは」）

02 教育理念と教育目的・教育目標

03 乳幼児期の教育の特性、非認知的な能力を育てる

04 教育と子ども家庭福祉の関連性

05 人間形成と家庭・地域社会

06 諸外国の教育思想

07 諸外国の教育の歴史

08 日本の教育思想・歴史（グループワーク：子ども観について）

09 子ども観と教育観

10 教育制度の基本

11 教育の法律と行政

12　諸外国の教育制度

13　教育実践の基礎

14　さまざまな教育実践

15　生涯学習社会における教育の現状と課題（グループディスカッション）

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。（約２時間） 【事後学修】 配布されたプリントやノートを用いて、授業で学習した内容をできるだけ早めに確認しておいてください。わからないところは参考書で確認したり質問したりするなど積極的に進めてください。（約２時間）
評価方法	(1)授業への取り組み(30％)(2)授業内での小テスト(30％)(3)定期試験(40％)
アクティブラーニング	グループワーク、グループディスカッション、映像活用学習
フィードバック	・授業内で実施した小テスト等については、全体講評のフィードバックを行います。 ・授業内での発表については、その都度フィードバックを行います。
実務経験	○　小中学校や教育行政での勤務経験を生かし、学校経営や教育法規等について具体的例をあげながら授業を行います。
教科書	教育原理　中央法規
参考書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、 その他、授業中に適宜資料を配布する。
備考	日頃から公教育のシステムや現代の教育や保育の問題に関心をもち、自分の言葉で考え、説明できるような取り組みを期待しています。

ナンバリング	22231		科目名	保育者論
担当教員	小口 恵巳子			

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

子どもとともに生活することを職業として選択することの意 味、保育者の役割、保育の専門性とはなにか。それらの本質的な意味を、保育者の仕事内容と具 体的な働き、求められる倫理、保育者の協働に対する理解を深めながら学びます。また、この授業では、グループに分かれて乳幼児に対する人権教育を踏まえ、既存の絵本を選びます。保育者として鋭敏な人権感覚を身に着けることの重要性についての理解を深めるきっかけとなるよう、その内容について、子どもたちに「絵本を通して何を伝えたいのか」について分析・発表を行います。

到達目標

保育者としての役割・倫理・多様な職務などに関する制度的な位置づけをはじめとする知識・理解を深めることができるようになります。 そして、保育者としての資質や専門性やキャリア形成を理解するなかで、将来の保育者として自覚できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　保育者の役割とは何か

02　保育者の職務内容について

03　保育者の倫理

04　保育者の責務

05　保育者の資質・能力

06　養護と教育の一体化について

07　家庭との連携と保護者に対する支援（1）家庭との連携の必要性

08　家庭との連携と保護者に対する支援（2）保育所等における子育て支援

09　保育の質の向上

10　保育における職員間の連携・協働

11　専門職間および専門機関との連携・協働

12　地域社会との連携・協働

13　関係機関との連携

14　保育者の専門性の向上とキャリア形成

15　保育者としての在り方についてのまとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 「幼稚園教育要領解説」から、保育者としてどのような資質が必要なのか、必要と思われる部分を抜粋記録する。授業のまとめを行う。その際、保育者の仕事内容とは何かにいて、人権をキーワードに自分なりの意見をノートにまとめる。 学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業のまとめを行う。その際、保育者の仕事内容とは何かについて、人権をキーワードに自分なりの意見をノートにまとめる。 学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	（1）授業の取り組み(30%)　（2）リアクションペーパー(30%)　（3）定期試験（40%)
アクティブラーニング	グループディスカッション　グループワーク　映像活用学習
フィードバック	提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。
実務経験	
教科書	
参考書	必要に応じて資料を配布する。
備考	授業内で、グループで選んだ絵本について、分析した内容を発表し、実際に幼稚園に行って読み聞かせをするつもりで、朗読してもらいます。読んでもらった側の学生は、子どもたちに対する人権学習を踏まえ、人権を保障することについて考えを深めます。

ナンバリング	22221		科目名	子ども家庭福祉

担当教員	安藤 みゆき

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

子ども家庭福祉の理念、歴史的変遷、実施体系、現状、課題について学びます。こども虐待、ドメスティックバイオレンス、貧困、障害、子どもの人権擁護など、現実に起きている子ども家庭福祉をめぐる諸問題について、教科書だけでなく、新聞記事、映像資料などを用いて考察します。また、最近増えてきた外国籍の子どもとその家庭への対応についても学びます。さらに、保育士は、それらの諸問題に、どのような貢献ができるのかについて意見交換を行い、それぞれの考察の共有と深化を図ります。

到達目標

1．子ども虐待や子どもの貧困などの問題に対して、保育士として何ができるかについて考える習慣を身に付けることができます。
2．子ども家庭福祉の意義や歴史的変遷についての知識を身に付けることができます。
3．子ども家庭福祉の制度や実施体系、現状や課題について理解することができます。
4．子どもの人権擁護の重要性について説明することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　現代社会における子ども家庭福祉の意義

02　子ども家庭福祉の理念と歴史的変遷について

03　子どもの人権擁護の歴史的変遷

04　児童の権利に関する条約（小テスト）

05　子ども家庭福祉の制度と実施体系

06　子ども家庭福祉を支える児童福祉施設

07　子ども家庭福祉と社会的養護

08　子ども家庭福祉の専門職

09　少子化と地域子育て支援

10　母子保健と子どもの健全育成

11　多様な保育ニーズへの対応（小テスト）

12　子ども虐待・DVとその防止

13　子どもの貧困とその対応

14　障害のある子どもへの対応

15　外国籍の子どもとその家庭への対応

授業時間外の学修	【事前学修】 子ども家庭福祉に関する報道に興味関心を持ち、新聞記事、ネット記事等を参考に具体的に自分の考えをまとめておく。（約2時間） 【事後学修】 テキストや授業で配布されたプリントを復習し、さらに授業で興味のあった内容について各自調べてノートにまとめる。（約2時間）
評価方法	提出物（ノート・formsでの回答など）60%　小テスト40%
アクティブラーニング	グループディスカッション　映像活用学習　ケースメソッド
フィードバック	ノートは、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　児童福祉施設（児童心理治療施設）で勤務していた実務経験を活かし、子ども虐待・貧困・社会的養護について実践的な授業を行う。
教科書	授業中に資料を配付します
参考書	明日の子供たち　有川浩　幻冬舎
備考	ノートは２分割して記入し、教員の示したスライド内容だけでなく、その授業のトピックスに関して自分の考察を記入し、さらに事前事後学修の内容を記入すること。それらの内容も評価対象となります。

ナンバリング	21263		科目名	社会福祉

担当教員	安藤 みゆき

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

社会福祉の意義・理念、法制度、歴史、今日の現状と課題を通踏まえ、保育者（就学前教育を担当する者）としての基礎的・基本的な専門性を学びます。

到達目標

1．社会福祉の意義・理念を説明することができます。
2．社会福祉諸領域における知識・理解を深め、社会福祉の構成要素を理解することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　社会福祉の理念と歴史的変遷
02　子ども家庭支援と社会福祉
03　社会福祉の制度と法体系
04　社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等
05　社会福祉の専門職
06　社会保障及び関連制度の概要
07　相談援助の理論
08　相談援助の意義と機能
09　相談援助の対象と過程
10　相談援助の方法と技術
11　社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
12　少子高齢化社会における子育て支援
13　共生社会の実現と障害者施策
14　在宅福祉・地域福祉の推進
15　諸外国の社会福祉の動向

授業時間外の学修	【事前学修】 講義の内容に該当するテキストの箇所を熟読したり、ノートにまとめたりする。社会福祉に関連する新聞記事を切り抜き、ノートやワークシートに整理する。（約2時間） 【事後学修】 講義の内容について友人とディスカッションを行い、知識を深めると共に自分の意見等をノートにまとめる。また、分からなかった語句等は図書館で調べること。（約2時間）
評価方法	レポート50%、ミニレポート50% レポート等の評価基準 1　誤字脱字がなく、内容が分かりやすい（50%） 2　内容がテーマに沿っており論述的である（40%） 3　専門用語を解説し、理解している（10%）
アクティブラーニング	ペア・グループワーク　映像活用学習
フィードバック	ミニレポートを採点し、評価ないしコメントをつけて返却します。
実務経験	
教科書	図解で学ぶ保育　社会福祉　萌文書林
参考書	必要に応じて講義で紹介します。
備考	ミニレポートの講評をフィードバックします。

ナンバリング	21121		科目名	保育原理

担当教員	小口 恵巳子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

保育や遊びの意味、保育の歴史、保育の内容や方法、保育者の援助について学習し、保育についての基本的な理解を深めます。そのなかで、「環境を通して行う保育」「生活を通して行う保育」「遊びを通しての保育」という保育の基本を学ぶとともに、幼保小連携、家庭との連携、子育て支援等、今日の保育の課題について触れ、望ましい保育のあり方を考えていきます。また、この授業では、グループに分かれて乳幼児に対する人権教育を踏まえたオリジナルの紙芝居を作成し、付属幼稚園で読み聞かせの実習を行い、保育についての理解を深めます。

到達目標

(1)保育の意義や目的、保育に関する法令や制度について理解できます。
(2)保育所保育指針における保育の基本について理解できます。
(3)保育の思想や歴史的変遷を知ることができます。
(4)保育の現状と課題について考察できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス：子どもの最善の利益と保育とは何か

02　子ども理解とは何か

03　保育の歴史（1）世界の保育について

04　保育の歴史（2）日本の保育について

05　保育の場（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園）

06　日本の保育制度の概略

07　保育環境と保育内容

08　保育所保育指針における保育の基本

09　保育方法（遊びを通した保育の重要性について）

10　子ども・子育て支援新制度と子育て支援に求められること

11　特別な配慮を要する子

12　保育の記録

13　実習について

14　保育者の専門性とは何か

15　保育についてのまとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 教科書を事前に読んでおき、わからない語句などを調べておく。 保育に関するニュース等に関心をもち、新聞記事等の切り抜きをノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業のまとめ、各章のまとめを行う。その際、授業中に理解できなかった語句や興味を持った事柄について調べる。学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	（1）授業への取り組み（40%）（2）定期試験（40%）（3）リアクションペーパー等の提出物（20%）
アクティブラーニング	グループワーク　映像活用学習
フィードバック	提出物には、教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	
教科書	佐藤康富編著（2016）『新しい保育原理』大学図書出版
参考書	保育所保育指針解説書　幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
備考	オリジナルの紙芝居を作成するグループワークを取り入れた授業を行いますので、積極的に参加してください。紙芝居の作成、付属幼稚園で読み聞かせの実習、ともに全員参加で行うことを基本とします。乳幼児に対する人権教育の意味を深く理解できるようになることを求めます。 筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	21141		科目名	保育の心理学

担当教員	安藤 みゆき

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☑ 選択（音療）
	☐ 選択		☑ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

乳幼児の心身の発達と保育実践について理解を深め、発達段階に応じた適切な援助ができるようになるための知識を学びます。また、遊びと環境を通して育ち、学んでいく子どもの姿や経験の過程についても理解を深めていきます。さらに子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性について考察を深めていきます。

到達目標

（1）乳幼児の心身の状態や行動を把握する技術や適切な発達援助の方法について説明することができます。（2）保育者としての立場を想定した事例課題に取り組むことで、子どもたちの心身の発達について考える習慣を身に付けることができます。（3）子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助のための子ども理解を身に付けることができます。（4）乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互作用的な関りや体験、環境の意義を理解することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション(1)子どもの発達を理解することの意義（2）保育における心理学と保育者の役割（発達心理学の概念から）

02 発達段階の理解（フロイト、エリクソン、ヴィゴツキーの理論を基に）

03 ピアジェの認知理論（1）発達段階の理解（2）自己中心性

04 子どもを取り巻く環境（1）子どもの発達と環境（2）直接的影響と間接的影響（3）居場所の特徴と広がり

05 環境移行に伴う心理的変化と保育者の支援の在り方　小テスト1回目

06 乳幼児と養育者の関係性（1）社会情動的発達（2）愛着理論（3）人見知り（4）社会的参照

07 情緒及び関係性の発達（1）一次的感情と二次的感情（2）他者の情緒の理解（3）二項関係と三項関係（4）心の理論

08 子どもの遊び（1）遊びの発達（2）一人遊びの重要性

09 役割取得の発達（1）ごっこ遊び（2）ジェンダー意識

10　仲間関係（1）発達に応じた仲間関係（2）いざこざ（3）仲間入り

11　自己の発達（1）乳幼児の自己感（2）各月齢における自己意識

12　自己抑制と自己主張

13　子どもの学びと保育　小テスト　2回目

14　言語の発達

15　発達障害について（グループディスカッション）

授業時間外の学修	【事前学修】 次回の授業範囲のテキストを読み、意味の分からない言葉や興味を持った内容についてノートにまとめてください。（約2時間） 【事後学修】 授業内容について復習し、さらに詳しく調べたことについてノートにまとめてください。（約2時間）
評価方法	小テスト２回60%、レポート40% レポートの評価基準：１．字数や提出期限を守ることができている（10%）２．誤字脱字がなく、表現が適切である（10%）３．内容がテーマに即して適切である（30%）４．論理的にわかりやすく展開されている（20%）５．課題の考察が充分である（30%）
アクティブラーニング	グループディスカッション
フィードバック	小テストについては、全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	○　乳幼児健診の心理相談員の実務経験を通して、乳幼児の発達について実践的な授業を行う。
教科書	「赤ちゃんの発達とアタッチメント」遠藤利彦　ひとなる書房
参考書	「保育所保育指針解説」厚生労働省編・「幼稚園教育要領解説」文部科学省　「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」フレーベル館
備考	

ナンバリング	21163		科目名	子どもの保健

担当教員	渡辺 政子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☑ 選択（音療）

授業概要	子どもの命を守り、健やかな成長を支えるための保健活動の意義や必要性を学びます。さらに、子どもの身体的な発育や発達、心身の健康状態と把握の方法、子どもの疾病とその予防法などを学び、子どもを取り巻く健康問題や課題を理解し、子ども一人ひとりの健康で豊かな成長を支えるために保育士が果たす役割とは何かを学びます。
到達目標	（1）子どもの健康の意義を理解し、保育における保健活動の目的と役割について説明できます。（2）子どもの発育と発達について理解し、子どもの健康状態や疾病に対し、その予防や適切な対応等について考え実践につなげることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　授業の概略と到達目標及び生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的

02　健康の概念と健康指標

03　地域における保健活動と子どもの虐待防止

04　わたしたちの体と身体発育（運動機能の発達を含む）

05　生理機能の発達と保健

06　精神機能の発達と保健

07　発育発達の把握と健康診断

08　体調の良くない子どもへの対応

09　子どものかかりやすい感染症(1)　ウイルス感染症

10　子どものかかりやすい感染症(2)　細菌感染症
細菌感染症

11　子どものかかりやすい感染症(3)
学校感染症・予防接種・嘔吐物の処理

12　感染症の予防と対応

13　子どもにかかりやすい病気(1)
　　アレルギー疾患

14　子どものかかりやすい病気82)
　　その他の病気

15　保育における保健

授業時間外の学修	【事前学修】 （1）各授業の前に教科書を読み、その内容を確認しておいてください。（2）子どもの健康に関するニュースに常に関心を持ち、講義内容に興味をもてるよう調べたり、考えたりしたことをまとめておいてください。(1時間) 【事後学修】 (1)毎回、授業前に、前回の授業内容の小テストを行います。授業内容についての見直しや確認をし、プリントにまとめてください。（1時間）
評価方法	小テスト（20%）、定期試験(60%)、提出物、授業への取り組み(20%)
アクティブラーニング	グループディスカッション、クイズ形式授業、映像活用学習
フィードバック	小テストについては、全体講評のフィードバックを行い、必要があれば個人的に助言を行いながら返却します。
実務経験	○　小中学校での実務勤務を活かし、子どもの健康や疾病、感染症、アレルギー、虐待等について実践的な授業を行う。
教科書	鈴木美恵子編著「保育者のための子どもの保健Ⅰ」創成社
参考書	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」 「保育所における感染症対策ガイドライン」
備考	(1)各授業前に前回の授業の復習（定着度を高める）として小テストを行うので、授業後は必ず復習をしておいてください。(2)小テストに関して全体講評のフィードバックを行うので、自主的に取り組み、知識の定着を図ってください。(3)調べ学習やグループディスカッションの授業では、積極的に参加し自分の考えや知識を確かなものにしてください。

ナンバリング	22161		科目名	幼児と音楽 Ⅰ

担当教員	兼氏 ちな美

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☑ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

幼い頃、歌いたいという気持ちや、リズムに合わせて身体が動くという経験は誰もが持ったことだと思います。そのような感性豊かな子ども達に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目です。歌えてピアノが弾ける保育者になるために、楽譜を読む基礎知識を学びます。

到達目標

(1)譜表を理解し、それぞれの譜表での音名を読み取ることができます。(2)音符、拍子、リズムを理解し、様々な拍子のリズム打ちができます。(3)色々な音楽用語を理解して適用できます。(4)和音やコードネームに関する知識を修得して、ピアノ伴奏を工夫することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション／音楽の三部門・音楽の三要素について／譜表について(1)五線(2)音部記号(3)大譜表

02 音符と休符について(1)音符と休符の種類(2)音符と休符の計算(3)連符

03 付点音符と付点休符について(1)付点音符と付点休符の種類(2)付点音符と付点休符の計算　第1回小テスト

04 拍子について(1)拍(2)拍子記号(3)リズム実習　第2回小テスト

05 反復記号について(1)リピート(2)D.C.・D.S.・Coda　第3回小テスト

06 グループワーク：リズムアンサンブルをしよう

07 音名について(1)幹音名(2)派生音名(3)異名同音　第4回小テスト

08 音程について(1)単音程(2)複音程　第5回小テスト

09 音階について(1)長音階と短音階のしくみ(2)長音階と短音階の主音と調号　第6回小テスト

10 実技テスト：長音階と短音階を弾く

11 和音について(1)和音の基本形と転回形(2)三和音の種類(3)属七の和音

12 コードネームについて(1)英語音名(2)コードネームの種類

13 実技テスト：コードネームを用いてピアノ伴奏を弾く

14　楽語について(1)強弱記号(2)速度記号(3)奏法に関する記号

15　学修した楽典の総復習・質疑応答

授業時間外の学修	【事前学修】 授業内で小テストを行い、学修内容が身についたかどうか確認します。学修の目安は1時間程度とします。 【事後学修】 テキストや授業で配付されたプリントを復習して下さい。限られた時間内で音楽基礎知識の修得を目指しますので、次のステップに進むために、授業内容を理解しておいて下さい。学修の目安は1時間程度とします。
評価方法	小テスト6回（修得度を確認するためのもの)20%　提出物（テキストなど)20%　実技テスト10%　定期試験50%
アクティブラーニング	グループワーク
フィードバック	毎回小テストは、評価を記入して返却しますので、誤答があった場合は個別のフィードバックを行いながら合格点に達するまで再提出します。
実務経験	○　小学校、高等学校での授業や、音楽大学志望者に楽典等の指導を行っている経験を活かし、分かり易い実践的な授業を行います。
教科書	「ピアノのアトリエ楽典レッスン 1」　山本英子著　共同音楽出版社
参考書	「一番よくわかる楽典入門」　木下牧子　ナツメ社
備考	欠席した場合は、配付資料などを確認し、課題内容について把握しておいて下さい。

ナンバリング	21221		科目名	幼児と音楽 II

担当教員	和泉田/八木澤/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

ピアノ演奏の基本的な技術を修得するとともに、子どもの歌の弾き歌いの技術を身につけます。また、子どもの発達に応じた音楽活動を支えるために、保育の場で使用する様々な歌や楽器の取り入れ方を学び、自信をもって指導に当たれるようにします。授業形態はコース別（基礎、初級、中級、上級）のグループレッスンが基本となりますが、必要に応じて個人レッスンを取り入れます。

到達目標

(1)楽譜や諸記号の正しい読み方を理解し、ピアノの弾き歌いの技術を身につけます。(2)子どもの側にたった楽しい音楽活動を可能にする指導法を修得します。(3)グループレッスンを通して、互いのよさを認め合い、助け合って技能を高めていく楽しさを味います。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション(1)自由曲の弾き歌い(2)課題となる曲の確認と練習

02 共通必修曲の弾き歌い(かえるのうた、おべんとう、おかえりのうた、きらきらぼし、とんぼのめがね)※諸記号の意味等については、随時演奏曲の中で理解を深めるようにしていきます。

03 共通必修曲の弾き歌い(おおきなくりの木の下で、どんぐりころころ、山の音楽家、手をたたきましょう、むすんでひらいて)

04 生活の歌・季節の歌の弾き歌い(おはよう、チューリップ、ちょうちょう、おはながわらった、こいのぼり)

05 生活の歌・季節の歌の弾き歌い(せんせいとおともだち、ことりのうた、おつかいありさん)

06 グループ内発表及び協議・リズム楽器を加えた演奏(リズム、音階、記号、音程などを総合的に復習)

07 季節の歌の弾き歌い(うみ、とんぼのめがね)

08 季節の歌の弾き歌い(おばけなんてないさ、はたけのポルカ、きのこ)

09 グループ内発表及び協議・実習に向けた取り組み(リズム楽器の導入、年齢に応じた歌の指導、使用教材などの検討)

10 子どもの歌の弾き歌い(ハッピー・バースディ・トゥ・ユー、森のくまさん
南の島のハメハメハ大王)

11 子どもの歌の弾き歌い(ミッキーマウスマーチ、トントントントンひげじいさん、世界中の子どもたちが)

12　グループ内発表及び協議・実習に向けた取り組み(環境設定、教材の工夫・リズム楽器の導入)小テスト課題曲の提示

13　自己選択曲(課題となる楽曲以外から選択）及び小テスト課題曲の弾き歌い練習

14　課題曲及び自己選択曲の弾き歌い・小テスト

15　まとめ、既習曲の演奏・実習に向けた取り組み(楽しい音楽活動)

授業時間外の学修	【事前学修】 課題となる楽曲の旋律や歌詞を把握し、演奏できるよう練習を重ねてください。(約1時間) 【事後学修】 授業で取り組んだ楽曲について、自分なりに表現の工夫をして演奏できるようにしてください。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み(５０％)　小テスト(５０％)
アクティブラーニング	グループレッスンでは、保育者役と子ども役に分かれて弾き歌いの演習を行ったり、子どもがイメージを膨らませ楽しく歌える伴奏法などについてディスカッションをしたりします。
フィードバック	授業内での弾き歌いの状況や取り組みについて、その都度アドバイスをするとともに、授業終了時には評価を加えた記録用紙を各自に返却します。
実務経験	
教科書	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第１巻(2017)学研ISBN978-4-05-154163-7 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第２巻(2017)学研ISBN978-4-05-154164-4
参考書	幼稚園教諭・保育士養成課程「幼児のための音楽教育」(2015)教育芸術社:ISBN978-4-87788-443-7
備考	基礎コースでは楽譜の読み方や記号の意味など、音楽全般の基本的内容を理解し、それらを生かして弾き歌いの技能を高めていきます。初級コースからは個人の技能をさらに高めるとともに実際の保育の場を想定した、実践的な弾き歌いをしていきます。 また、基礎コースの学生は2年次の「音楽演習I」を必ず履修するようにしてください。

ナンバリング	22224		科目名	幼児と音楽 III

担当教員	和泉田/八木澤/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☑ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

履修者のピアノ演奏技術に応じたグループ編成をした上で、音楽表現の基本となる技能と実際の教育の場を想定したピアノ伴奏や弾き歌いの技能を高めます。また、より表現力を高める演奏を目指す中で、他の楽器の演奏技術も修得できます。なお、必要に応じてグループレッスンであっても個人レッスンに変更することがあります。

到達目標

(1)子どもの発達段階に応じたピアノ伴奏や弾き歌いの技能を修得します。(2)子どもの表現の幅を広げるためのリズム楽器の名称や演奏法を学びます。(3) グループでの活動を通し互いの立場を理解し協力して各自の技能を高め合う楽しさを味わえるようにします。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション(１)課題となる楽曲の確認(２)既習曲の弾き歌い

02 グループレッスン(１)夏休みに取り組んだ楽曲の弾き歌い (２)秋・冬の歌の課題１

03 グループレッスン(１)秋・冬の歌の課題２(2)弾きやすい伴奏法、歌唱法

04 グループレッスン(１)秋・冬の歌の課題3弾き歌い(２)発声の基本(発音)

05 個人レッスン（１）課題1、２、３の弾き歌いの復習（２）発声の基本（呼吸法)

06 グループレッスン(１)園生活の歌の課題１(２)リズム楽器を加えた伴奏

07 グループレッスン（１）園生活の歌の課題(２)伴奏の工夫

08 グループレッスン(１)園生活の歌課題３(２)コード伴奏

09 個人レッスン(1)課題1、2、3の弾き歌いの復習(2)発声の基本(響きのある声)

10 グループレッスン（１）子どもの歌・わらべうたの課題１(２)運指の工夫

11 グループレッスン(1)子どもの歌。わらべうたの課題2(2)ピアノと歌のバランス

12 グループレッスン（１）教育実習で扱う楽曲の練習(2)楽曲に合わせた環境設定、導入の工夫(3)小テスト内容の提示

13 個人レッスン（１）教育実習で扱う楽曲の練習(2)子どもの声域と発声

14　グループレッスン(1)実際の教育の場を想定した弾き歌い・小テスト（達成度確認）

15　グループレッスン（１）教育実習で扱う楽曲の弾き歌い（２）子どもの生活と音楽

授業時間外の学修	【事前学修】 課題の楽曲を理解（歌詞・メロディーの把握・楽曲の背景を調べるなど）し、弾き歌いができるよう練習を重ねてください。(約1時間) 【事後学修】 授業での取り組みをもとに、自分なりに表現を工夫することを楽しみながら、より表現力のある音楽づくりを進めてください。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み（５０％）試験（５０％）
アクティブラーニング	各グループの構成員で協力してピアノの運指を工夫したり、より効果的な指導を行うための環境設定や教材についてディスカッションをしたりして互いの指導力の深化を図ります。
フィードバック	授業内での取り組みや演奏についてその都度アドバイスをしたり、終了時には各自の記録用紙に評価を加えたりしてフィードバックします。
実務経験	
教科書	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第１巻学研(2017)ISBN978-4-05-154163-7 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第２巻学研(2017)ISBN978-4-05-154164-4
参考書	幼稚園教諭・保育士養成課程「幼児のための音楽教育」教育芸術社(2015)ISBN978-4-87788-443-7
備考	グループレッスンではピアノ以外にリズム楽器を加えて合奏形式で歌ったり、指導者役と子ども役に分かれて集団における音楽指導を想定した演習を行います。個人レッスンでは課題となる楽曲の他に教育実習で扱う楽曲の練習も行います。また、授業内での演奏や取り組みについて、その都度、フィードバックします。

ナンバリング	22121		科目名	幼児と造形

担当教員	七字 純子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

子どもの造形表現の意義や重要性について学び、作品制作を通して、学生自身がものづくりの楽しさを実感するとともに、子どもの生活と造形的な遊びを豊かに展開するための知識や技術を修得します。この授業では、造形活動の基本的な描画材（クレヨン・水彩絵の具など）の特性について学び、さまざまな表現技法を体験します。また、ハロウィンの衣装やポップアップカード、グループワークによる壁面構成など季節の行事に関連した制作にも取り組みます。

到達目標

1.子どもの造形表現の意義や重要性について理解できます。
2.子どもの造形活動の基本的な描画材の特性や表現技法を修得し、子どもの造形活動を援助することができます。
3. 季節の行事に関連した制作を通して、子どもの生活と造形的な遊びをより豊かにし、子どもたちとものづくりの楽しさや喜びを共感することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス
⑴ 授業の内容　⑵ 評価の規準　⑶ 授業への臨み方　⑷ 教科書の内容と活用の仕方　⑸ 造形・美術教育に関するアンケート

02　子どもの造形表現
⑴ 子どもの造形表現の意義　⑵ 子どもの造形活動と造形的遊び

03　ハロウィンのコスチューム（カラーポリ袋を素材として）1
⑴ コスチュームのデザイン　⑵ コスチュームの制作①（基本となる形の作成）

04　ハロウィンのコスチューム（カラーポリ袋を素材として）2
⑴ コスチュームの制作②（装飾）

05　ハロウィンのコスチューム（カラーポリ袋を素材として）3
⑴ コスチュームの仕上げ　⑵ ファッションショーの準備　⑶ ファッションショー（発表・鑑賞）

06　クレヨンの技法〈モダンテクニック〉
⑴ クレヨンの基本　⑵ フロッタージュ　⑶ はじき絵①（クレヨンで模様を描く）⑷ スクラッチ

07　水彩絵の具の技法〈モダンテクニック〉
⑴ 水彩絵の具の基本　⑵ デカルコマニー　⑶ ドリッピング　⑷ ブロウイング　⑸ はじき絵②（水彩絵の具で塗る）

08　園児に贈るポップアップカード１
⑴ ポップアップカードの作り方　⑵ ポップアップカードのデザイン　⑶ カードの試作

09　園児に贈るポップアップカード２
⑴ ポップアップカードの制作①（基本の形とパーツの作成）

10　園児に贈るポップアップカード３
⑴ ポップアップカードの制作②（パーツを貼り合わせて完成）　⑵ カードを贈る会の進め方と担当・役割の確認（グループディスカッション）

11　園児に贈るポップアップカード４
⑴ カードを贈る会（グループごとに、こども園の各担当クラスに訪問し、園児にカードを渡す）　⑵ 報告会（各グループごとに発表）

12　壁面構成（グループワーク）１
⑴ 題材の決定と下絵の作成　⑵ パーツの作成①

13　壁面構成（グループワーク）２
⑴ パーツの作成②

14　壁面構成（グループワーク）３
⑴レイアウト・貼り付け　⑵ 完成作品の発表・鑑賞

15　まとめとふりかえり
⑴ 授業の総評　⑵ リフレクションシートの記入（各課題の自己評価・反省・感想など）

授業時間外の学修	【事前学修】 1.作品を制作するための用具、材料を準備しておく。 2.日頃から、子どもの造形作品について資料・文献やインターネットなどで調べておいてく。(約１時間) 【事後学修】 授業で習得した知識や技術を、実習や保育の現場でどのように活用できるかを考えておく。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み(40%)、課題作品の完成度(40%)、ふりかえりシートの提出（20%）など総合的に評価。
アクティブラーニング	グループワーク　グループディスカッション　映像活用学習
フィードバック	各課題についは、全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	○　高等学校（美術科）や専門学校（ビジュアルデザイン科）、美術館（美術教育普及課）での実務経験を活かし、造形活動を展開するために必要な技法および表現について実技を中心とした授業を行う。
教科書	子どもの造形表現−ワークシートで学ぶ−　北沢 昌代 編著　開成出版　2019
参考書	なし
備考	この授業は、基本的に4〜5名のグループワークで行います。用具・画材・素材の準備、制作、片付け、清掃までグループ全員で協力して取り組むこと。

ナンバリング	22231		科目名	幼児と表現

担当教員	加茂川 くるみ

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

領域『表現』の指導に関する、幼児の表現やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付けることができます。

到達目標

幼児の表現の姿やその発達を理解し、身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにします。(1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができます。(2)身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができます。(3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができます。(4)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができます。(5)様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動を豊かにすることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　領域『表現』のねらいと内容の理解について
・幼児教育の基本と領域『表現』のねらいについて理解する
・育みたい資質・能力について理解する。

02　幼児の表現の発達の理解について
・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や「表現」のねらいと内容について理解する。

03　乳幼児の発達と表現について
・表現者を主体者と理解する
・遊びを表現ととらえる
・保育的関係に支えられる表現

04　乳幼児の発達と表現について
・豊かな表現を支える援助や環境について理解する
・乳児、幼児の発達を支える環境について
0歳児、1歳児～6歳児

05　乳幼児の表現が育つ基盤
・保育所保育指針から

・園環境のありかた
・行事と表現活動活との対話について

06　コミュニケーションとしての表現
・まねる・みせる・受け止める・話し合う
・身近な遊びや生活に心動いたことなどをもとに造形で表現する

07　幼児にとって表現と色を考えよう
・ちぎり絵の活動を体験してみよう
・5歳児のちぎり絵の活動の流れを考えよう
・指導案の留意点についてグループで討議しよう

08　色で遊ぼう色を重ねる
・生活の中にある物を活用した表現やデカルコマニーなどの表現活動を体験する
・互いの作品を鑑賞し、作品をあじわう体験をする

09　事例や映像を通して、乳幼児が経験し身につけていく表現の内容と指導上の留意点を身近な素材を用いた,総合的な表現活動の実践及び活動の特徴や面白さ,留意点などのグループディスカッション

10　共にあじわい表現する
表現する主体へと形つくっていくための教師の役割
絵本の世界をグループで協力して自由に表現する

11　一人一人の特性に応じた指導と,インクルーシブ保育における表現活動の可能性について

12　総合的な表現活動の指導案に沿った模擬保育の実践と保育者の役割について

13　映像を通して学ぶ,乳幼児の表現を支え,育む環境について
飾る・変身する楽しさを体験する
・なりきる子どもの感性に寄り添いながら

14　子どもの豊かな感性と造形表現
・「もの」を介したコミュニケーション
・「感じる・考える・工夫する」造形表現

15　乳幼児の保育の現代的課題と領域「表現」について

授業時間外の学修	【事前学修】 乳幼児の表現活動を取り入れた指導案を作成する。(約1時間) 【事後学修】 グループワークで学んだ表現活動をノートにまとめる。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み 60%　レポート及び課題への取り組み 40% レポートの評価基準：1,字数や提出期限を守ることができている(10%)2.脱字がなく,表現が適切である(10%)3.内容がテーマに即して適切である(20%)4.子どもの内面に育つ表現が具体的に理解できている(30%) 5 .乳幼児期の発達が,正しく論理的に展開されている(30%)
アクティブラーニング	グループディスカッション　映像活用学修　製作
フィードバック	授業内レポートや発表について,その都度,フィードバックを行う。
実務経験	
教科書	事例で学ぶ保育内容　領域表現　無藤隆監修　浜口順子編者代表
参考書	保育所保育指針解説書(厚生労働省 フレーベル館)　幼稚園教育要領解説(文部科学省 フレーベル館)　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府 他 フレーベル館)
備考	乳幼児の表現活動の中から、実際に製作したり描画をしたりする。

ナンバリング	21131		科目名	幼児と健康Ⅰ

担当教員	国府田 はるか

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☑ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☐ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

健康な心身を育み、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導のための基礎的知識および実践的技術を身につけます。また、乳幼児が多様な動きや豊かな身体活動を実践するための工夫や配慮について学びます。この授業では、ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法やICT教材を取り入れます。

到達目標

乳幼児の健康、心身の発達、生活習慣、安全な生活、運動発達、身体活動について理解し、その特徴や意義を説明することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション(1)授業に臨む心構え　(2)運動経験アンケート

02　乳幼児の健康 (1)健康の定義　(2)乳幼児期の健康の意義

03　乳幼児の健康 (1)乳幼児をとりまく生活環境と健康

04　乳幼児の心身の発達(1)乳幼児期の身体的発達(2)乳幼児の心と体

05　乳幼児の生活習慣(1)着脱　(2)食事　(3)睡眠　(4)清潔　(5)排泄 (6)生活リズムの形成

06　乳幼児の安全な生活(1)安全教育　(2)健康管理

07　乳幼児の安全な生活(1)事故防止　(2)怪我や病気の予防

08　乳幼児の運動発達(1)年齢ごとの運動発達　(2)発達をふまえた身体活動

09　乳幼児の運動発達(1)日常生活における動き　(2)多様な動き

10　乳幼児の身体活動(1)徒手的遊び

11　乳幼児の身体活動(1)身近な環境を用いた遊び

12　乳幼児の身体活動(1)道具を用いた遊び

13　乳幼児の身体活動(1)器械遊び

14　乳幼児の身体活動(1)２人組遊び　(2)集団遊び

15　乳幼児の身体活動(1)多様な動きの経験

授業時間外の学修	【事前学修】 子どもの心身や運動の発達、健康や安全について、教科書の各セクションをよく読み理解を深めておいてください。また、経験したことのない身体活動については、授業前に成り立ちや特徴等を調べておいてください。(約1時間) 【事後学修】 授業で扱った身体活動を継続し、実践知を深めることが望ましいです。心身のコンディションに関心を持ち、向上させていくための主体的な身体活動を日々実践するように心がけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み(40%)、体操服・ゼッケン・体育館シューズ等の身だしなみ(20%)、授業シートおよびレポート(20%)、実技発表(20%)等によって総合的に評価します。 授業シートおよびレポートの評価基準　(1)字数や提出期限を守ることができている (20%)　(2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%)　(3)内容がテーマに即して適切である(30%)　(4)考察が充分である(30%) 実技発表の評価基準　(1)笑顔で踊ることを楽しんでいるか (20%)　(2)全身を大きく使って踊っているか (20%)　(3)生き生きと世界観を表現しているか (20%)　(4)観客に伝えようという意欲があるか (20%)　(5)チームで協力して練習を行っていたか (20%)
アクティブラーニング	ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション
フィードバック	毎回提出する授業シートや実技発表については、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	糸井　志津乃 編著「子どもの健康と安全」（2020）一藝社
参考書	テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。
備考	この授業では教員からの指示に応じて指定の運動着およびゼッケンを着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。実技、ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の表現を受け入れ共感するとともに、共に高めあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	22221		科目名	幼児と健康 II

担当教員	国府田 はるか

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

乳幼児の心身や運動の発達をふまえ、イメージや感性を豊かに育むダンス・身体表現等の具体的展開に必要な知識や技術を習得します。また、ロールプレイによる模擬保育を行い、様々な遊具・素材・教材等を活用した身体活動の環境構成及び指導方法について学びます。この授業では、ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。

到達目標

子どもが健やかに伸び伸びと活動することのできる運動遊び・表現遊びの指導方法について学ぶことができます。また、保育の環境構成および具体的展開のための技術を習得することができます。さらに、ダンスや表現遊び等の身体活動を通じて学生自身が個性豊かな動きづくりを実践することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 オリエンテーション (1)授業に臨む心構え (2)子どもと身体表現 (3)テキスト「まねっこ」

02 器械・器具を用いた運動遊びの展開と指導法 (1)乳幼児のボール遊び (2)テキスト「のびて・のびて」

03 器械・器具を用いた運動遊びの展開と指導法 (1)乳幼児のフープ遊び (2)テキスト「生き物」

04 器械・器具を用いた運動遊びの展開と指導法 (1)乳幼児のロープ遊び (2)テキスト「ダンボール」

05 器械・器具を用いた運動遊びの展開と指導法 (1)乳幼児のマット遊び (2)トランポリン遊び (3)テキスト「おむすびころりん」

06 身近な素材を用いた運動遊びの展開と指導法 (1)ペットボトル遊び (2)風船遊び (3)ビニール遊び (4)テキスト「ビニール」

07 身近な素材を用いた運動遊びの展開と指導法 (1)新聞紙遊び (2)布遊び (3)テキスト「新聞紙」

08 つながり合うからだ・生き生きとしたからだ (1)オノマトペを身体表現へ (2)ゴー＆ストップ (3)テキスト「音」

09 世界のダンス (1)ヒップホップの基本動作 (2)スプーンとフォーク (3)テキスト「てあわせ」

10 世界のダンス (1)フラの基本動作 (2)36の動きカードゲーム (3)テキスト「野原」

11 世界のダンス (1)ベリーダンスの基本動作 (2)鏡のように動いてみよう (3)テキスト「お花」

12　世界のダンス　(1)バレエの基本動作　(2)エアーボール　(3)テキスト「リズム」

13　創作ダンス　(1)グループ決め　(2)テーマの設定　(3)モティーフ創作　(4)モティーフから一連のシーンへ　(5)空間の構成　(6)テキスト「歌」

14　創作ダンス　(1)絵本と身体表現　(2)踊り込み　(3)リハーサル　(4)作品発表と相互評価　(5)テキスト「スイミー」

15　まとめ　(1)テキスト「ちいさなくも」　(2)振り返り　(3)レポート　(4)授業アンケート

授業時間外の学修	【事前学修】 乳幼児期の身体表現について、教科書の各セクションをよく読み理解を深めておいてください。また、経験したことのないダンスやエクササイズについては、授業前に成り立ちや特徴等を調べておいてください。(約1時間) 【事後学修】 授業で扱った身体活動を継続し、実践知を深めることが望ましいです。心身のコンディションに関心を持ち、向上させていくための主体的な身体活動を日々実践するように心がけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み(40%)、体操服・ゼッケン・体育館シューズ等の身だしなみ(20%)、授業シートおよびレポート(20%)、実技発表(20%)等によって総合的に評価します。 授業シートおよびレポートの評価基準　(1)字数や提出期限を守ることができている (20%)　(2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%)　(3)内容がテーマに即して適切である(30%)　(4)考察が充分である(30%) 実技発表の評価基準　(1)笑顔で踊ることを楽しんでいるか (20%)　(2)全身を大きく使って踊っているか (20%)　(3)生き生きと世界観を表現しているか (20%)　(4)観客に伝えようという意欲があるか (20%)　(5)チームで協力して練習を行っていたか (20%)
アクティブラーニング	ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション
フィードバック	毎回提出する授業シートや実技発表については、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	西洋子、本山益子、岡本雅子 編著「保育内容　表現　からだからはじまる保育のアート—創造と表現がつながってあふれる—」（2018）市村出版
参考書	テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。
備考	この授業では指定の運動着およびゼッケンを着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。実技、ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の表現を受け入れ共感するとともに、共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	22231		科目名	幼児と言葉

担当教員	森井 榮治

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

様々な事例を通して、子どもが言葉を学び獲得していく過程を理解することにより、「言語の力」について知ることができます。さらに、知覚から始まり、伝達力及び推論する力、認識力や思考力等が備わるための保育における言語活動の実践保育内容について具体的に考えます。

到達目標

(1)日々言葉を獲得していく幼児に、保育者としてどのように働きかければよいか、幼児の日常の身近な生活における言語表現の例を取り上げ、「言語の力」について理解することができます。
(2)児童文化財(絵本、紙芝居等)の活用や感覚を豊かにする言葉遊び等の演習を通して言語に関する保育内容を具体的に考えることができます。
(3)保育現場における言葉に関する課題について理解し、言葉を育むための保育者の役割と援助について理解することができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　ガイダンス
　　人間と言葉　言葉の意義と機能について

02　乳幼児期の言葉の獲得　乳幼児の言葉の獲得と言葉の仕組みについて

03　言葉の豊かさ　日本語の特徴の理解について

04　言葉遊び　言葉遊びの歴史、保育における言葉遊びの位置づけと活用について

05　言葉を育むための活動と児童文化財の活用　(1)おはなしの意義について

06　言葉を育むための活動と児童文化財の活用　(2)紙芝居の歴史と特徴について　視聴覚教材活用

07　言葉を育むための活動と児童文化財の活用　(3)絵本とは何かについて

08　言葉を育むための活動と児童文化財の活用　(4)絵本の効果的な「読み聞かせ」の方法について

09　領域「言葉」とは　領域「言葉」の「ねらい」と「内容」について

10　子どもの発達と言葉　子ども発達段階に応じたコミュニケーションの育ちについて

11　前言語期のコミュニケーションと保育　言葉に出る前のコミュニケーションと愛着について

12　話し言葉の機能と発達　話し言葉を獲得していく過程と基本となる力とそれを支援する保育者の役割について

13　書き言葉の発達と保育　子ども書き言葉の発達過程とそれを支える保育者の役割について

14　言葉に関する諸問題　言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援について

15　現代社会と言葉　幼児の言葉を育む環境の変化、幼児とメディアの関係及び課題について

授業時間外の学修

【事前学修】

・ 児童文化財を一つ以上具体例として挙げられ、実演できるように探しておく。(1時間)

・「言葉」について自分なりに考えていることやとらえていることをまとめておく。さらに疑問に思ったことや確認したいことについては授業内で質問するよう準備をしておく。

【事後学修】

・保育者を目指す者として、言語の扱い方の重要性を知り、保育者としてどんな資質が必要であるか保育実践に活かすことができるように授業の振り返りとして自分なりにまとめておく。

評価方法

授業への取り組み　30%
提出物(ワークシート)　40%
定期試験　30%

アクティブラーニング

□コミュニケーションに関するグループワーク行い、グループディスカッションやシェアリングを通して体験的に「言葉の意義・力・機能」について学ぶ。

□視聴覚教材から多様な言葉の保育内容の実践を学び、具体的な保育過程を構築するためにグループディスカッション後、自分の考えた内容方法と関連させて振り返り、保育実習に生かす。

□授業内にキーワードを挙げ、それについての自分の考えをワークシートにまとめる。

フィードバック

・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に、言語に対しての自分の考えが深まったり、違った視点の発見や視野が広がるような聞き方をするため、授業ワークシートを活用する。

・毎時間のワークシートについては、必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却する。

実務経験

○　小中学校や教育行政勤務経験を活かし、言語獲得から小学校への学齢時までの言語に関する発達過程を踏まえ、現場での幼児期の感情の言語化を通して、コミュニケーション能力、他者の気持ちを思いやる力、認識力、思考力等を備える基盤づくりとして、今後ますます重要性を増す幼児教育実践に対する意欲を喚起したい。

教科書

・保育学生のための「幼児と言葉」・「言葉指導法」　馬見塚昭久、小倉直子　編著　ミネルヴァ書房

参考書

・保育所保育指針　厚生労働省
・幼稚園教育要領　文部科学省
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省

備考

グループディスカッションに,積極的に参加するには自分の考えを常にもっていることが重要なので、言語に関する実践に関する著書について授業内でも紹介するが、本校の図書館を積極的に利用して学んでほしい。さらに幼児教育は現代社会における関心も非常に高いので、報道機関による情報には、関心をもち続けてほしい。

ナンバリング	22261		科目名	音楽演習III

担当教員	和泉田 寛

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☑ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

表現や鑑賞の活動を通して各自の音楽的感覚を高め、子どもたちとともに音楽活動を楽しみ、心豊かな生活が送れる資質と能力を身につけていきます。また、合唱などの活動を通して基本的な発声法を修得し、より響きのる声で歌唱や弾き歌いができるようになります。

到達目標

(1)響きのある声によるハーモニーの美しさを体験します。(2)音楽表現の基本となる楽譜や諸記号についての理解を深め、表現力のある音楽を創りあげることができるようにします。(3)子どもにとって楽しい音楽活動の指導法を修得します。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　(1)毎日のボイストレーニング(2)校歌練習

02　基礎練習　(1)発声の基本(正しい発音)(2)校歌練習

03　基礎練習　(1)発声の基本(呼吸法)(2)３人グループでのハーモニーづくり

04　基礎練習　(1)発声の基本(響きのある声)※以後一定時間発声練習を行う。(2)グループ発表

05　合唱曲1　(1)パート編成・パート練習(2)諸記号の理解と表現

06　合唱曲1　(1)パート練習・全体練習(2)音を聴く力を鍛える(聴音書き取り)

07　合唱曲1　(1)全体練習・表現の工夫(2)音を聴く力を鍛える(聴音書き取り)

08　合唱曲2　(1)パート練習・全体練習(2)リズム感を鍛える(様々なパターンのリズム打ち)

09　合唱曲２　(1)全体練習・表現の工夫(2)リズム感を鍛える(様々なパターンのリズム打ち)

10　子どもと音楽1　想像力を広げる鑑賞活動※以後一定時間合唱練習を行う。

11　子どもと音楽2　子どもに分かりやすい指揮法・演習

12　子どもと音楽3　(1)子どもの声域(2)生活の中の音楽

13　合唱曲１のまとめ(1)２つの合唱グループの発表(2)発表についての協議(ハーモニー、バランス、テンポ、表現の工夫、指揮等を観点とする。)

14　合唱曲２のまとめ(1)２つの合唱グループの発表(2)発表についての協議(ハーモニー、バランス、テンポ、表現の工夫。指揮等を観点とする)(3)小テスト

15　まとめ(1)小テストの見直し(2)合唱曲１・２（表現のある合唱を目指して）

授業時間外の学修	【事前学修】 日頃から自分の声に意識を向け、声の響きや発音に注意した発声を心がけます。また、合唱曲における自分のパートの旋律やリズムを正確に把握できるよう練習します。(約1時間) 【事後学修】 課題となったこと（発声やリズム、記号の意味まど）について自主練習したり調べたりします。また、友人とハーモニーをとる練習をします。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み（５０％）　小テスト（５０％）
アクティブラーニング	授業終了時にワークシートを用いて授業への取り組みや内容の修得状況を自己評価し、次時への課題を明確にします。
フィードバック	毎回提出されるワークシートに授業への取り組みや内容の修得状況に関しての賞賛や励まし、課題に関するアドバイス等を記載して各自に返却します。
実務経験	
教科書	なし
参考書	基本のボイストレーニング　根本茜津　西東社(2014)
備考	この授業では毎回一定時間発声練習を行い、より響きのある声の実現を目指します。また、メンバー全員が協力して合唱曲をまとめていく楽しさを体感してもらいます。

ナンバリング	21232		科目名	幼児と環境

担当教員	助川 公継

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☑ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

身近な自然や遊び場、直接体験、子供同士で遊ぶ機会の減少などは子供の育ちへ様々な影響を与えています。乳幼児を取り巻く環境の諸側面（物的・人的・社会的・安全等）と、その課題について考察していきます。子供の発達と環境のもつ意味、環境とのかかわりについて理解し、子供がどのように環境にかかわって活動を生み出していくか、季節や状況等に応じた環境の構成について学びます。また、環境の多様性を認識し、幼児期の生活にふさわしい環境構成の在り方について考察します。

到達目標

(1)幼児教育の基本的な考え方、子供の発達と環境のもつ意味、環境との関わり方について理解し、環境構成について考察できます。
(2)幼児期の思考や科学的概念の発達の特徴を理解し、幼児を取り巻く事象に対する興味・関心や理解の仕方について説明できます。
(3)遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に基づき活用し、興味や関心、感覚をもつようになることについて説明できます。また、幼児の発達における児童文化財の意義について理解できます。

学位授与の方針

【表現文化学科】
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　子供の育ちと領域「環境」

02　現代社会の幼児を取り巻く環境と、その課題

03　乳幼児期の発達における環境との関わり（心理学的アプローチ）

04　乳幼児期・児童期の認知的発達（認知的発達の特徴）

05　環境を通して行う教育の意味

06　領域「環境」と他領域との関係

07　自然との触れ合い（１）自然と出合う

08　自然との触れ合い（２）季節の変化に気づく

09　自然との触れ合い（３）植物を育てる

10　自然との触れ合い（４）生き物に親しむ

11　保育環境の構成（１）ものや道具にかかわって遊ぶ

12　保育環境の構成（２）ものの性質や仕組みに気付く

13　保育環境の構成（３）文字や数量や図形に関心をもつ

14　生活の情報に興味をもつ

15　地域に親しむ

授業時間外の学修	【事前学修】 シラバスで次回の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。（２時間） 【事後学修】 配布されたプリントやノートを用いて、授業で学習した内容をできるだけ早めに確認しておいてください。わからないところは参考書で確認したり質問したりするなど積極的に進めてください。（２時間）
評価方法	(1)授業への取り組み(20%) (2)課題レポート(30%) (3)定期試験(50%) 課題レポートの評価基準 １．決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%） ２．求められている課題に内容が即しているか（20%） ３．指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%） ４．課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）
アクティブラーニング	ブレインストーミング、グループワーク、プレゼンテーション
フィードバック	・授業内で実施した小テストやレポートについては、全体講評のフィードバックを行います。 ・授業内での発表については、その都度フィードバックを行います。
実務経験	
教科書	事例で学ぶ保育内容　領域「環境」無藤 隆 監修・福元真由美編集　萌文書林
参考書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
備考	課題によってはグループ活動を取り入れ、柔軟な発想を促すような取り組みをします。

ナンバリング	22221		科目名	保育の計画と評価

担当教員	佐藤 隆

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要	保育は計画的に実践されるものであり、実践の後には評価を行うことが必須です。乳幼児にとって保育の場とはどのような場なのかを考えた上で、保育という営みの基本は何か、保育者の役割は何か、といった保育実践の土台となる確認をします。また、保育の計画と実践における『計画→実践→評価→改善』の循環構造についての理解を深めます。
到達目標	(1)保育所、認定こども園における保育を方向付ける『全体的な計画』について学ぶことができます(2)全体的な計画』がもつ意味とその作成原理を理解することを通して、全体的な計画を読み解く力が高まります(3)指導計画作成の基本的手続きと、指導計画作成の前に保育者が理解しておくべき事項として『発達の理解』『活動の理解』『子ども理解』について学ぶことができます(4)保育の省察及び記録とカンファレンスについて学ぶことができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 「保育の計画と評価」とは～オリエンテーション～

02 乳幼児期における保育の基本と計画

03 保育において計画を立てる意味

04 保育の計画の種類

05 全体的な計画の作成

06 指導計画のデザイン

07 指導計画作成における基本的な考え

08 指導計画における記載項目と内容

09 部分実習指導案作成①～原案を考える～

10 部分実習指導案作成②～２歳児～

11 部分実習指導案作成③～４歳児～

12　エピソード記録の書き方

13　半日実習や一日実習の指導案について

14　保育の記録と省察

15　保育の計画の評価と改善

授業時間外の学修	【事前学修】 事前にシラバスを確認し、授業前に教科書を読んで予習をする。分からない用語があったら調べる。 (約2時間) 【事後学修】 教科書や配布資料等を読み返し、復習する。課題を出された場合には、決められた期日までに提出する。 (約2時間)
評価方法	提出物（指導計画等70%）　授業への取り組み（30%）
アクティブラーニング	個々の意見や考えを取り上げ、全体で検討する場面を設定します。また、グループワークを行い、その成果を発表・共有する場を設定します。
フィードバック	レポートや指導案には、添削をしたりコメントを記入したりして返却します。
実務経験	○　幼稚園に勤務していた実務経験を活かし、保育現場の現状をもとに具体的な事例研究を行えるようにします。
教科書	「保育の計画と評価」宮川萬寿美編著　萌文書林　ISBN978-4-89347-272-4
参考書	フォトランゲージで学ぶ　子どもの育ちと実習日誌・指導計画　　神永直美著　　萌文書林 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館　ISBN0978-4-577-81448-2　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省ISBN978-4-577-81449-9C3037
備考	保育実習指導Ⅰ－Aと関連付けて授業を行います。 レポートや指導案について、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	21232		科目名	教育課程論

担当教員	加茂川 くるみ

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☑ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

幼児教育において教育課程を編成する意味を理解するとともに、アクティブラーニングの技法を取り入れ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。

到達目標

(1)幼稚園における教育課程と指導計画の役割、意義、並びに種類やそれぞれの特性が理解できます。 (2)幼児の育ちを理解し、実態に応じたねらいや内容を考えて指導計画を作成できるようになります。(3)計画と実践との関係がわかり、保育終了後の省察と評価、改善ができるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 幼児教育の基本と教育課程

02 教育課程の意義

03 教育課程の編成原理

04 幼稚園の教育課程（教育課程と長期・短期指導計画のつながり）

05 教育課程の編成（教育課程⇒期⇒月⇒週⇒日⇒日々の記録）

06 教育課程から指導計画へ（期の指導計画から月の指導計画）

07 教育課程から指導計画へ（月の指導計画から週の指導計画）

08 指導計画の実際（部分指導案の作成）

09 指導計画の実際（指導案の演習）

10 指導計画とマネジメント

11 指導計画と評価

12 教育課程と社会的課題（幼保一元化をめぐる現状）

13 幼児期の遊びと学び

14 小学校への接続（幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿から）

15　アプローチ・スタートカリキュラムについて　まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 指導計画作成に向けて保育の内容を考察するなど自主的な学修時間を２時間程度要する。 【事後学修】 決められた期日までに指導計画を仕上げ、提出するための時間として2時間程度の学習を必要とする。
評価方法	授業への取り組み30%　提出物(指導計画等)20%　小テスト2回(部分実習指導案)50%
アクティブラーニング	映像活用学習　クリエイティブ・セッション
フィードバック	提出レポート・指導案には、コメントを記入して返却します。
実務経験	○　国公立幼稚園教諭、公立幼稚園教頭、認定こども園副園長等の実務経験を活かし、保育現場をイメージしながら幼児の育ちに添った指導計画が作成できるよう実践的な授業を行う。
教科書	『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美著　崩文書院　ISBN978-4-89347-239-7
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 実習に行く前に知っておきたい保育実技　久富陽子　萌文書院 実習ガイドブック　茨城女子短期大学
備考	

ナンバリング	21131		科目名	保育内容総論
担当教員	石井 純一			

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☑ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

幼稚園・保育所等就学前保育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実際について知識や理解を深め、保育者として保育を構想する力や実践力を身につける。保育内容を総論的にとらえる視点を身につけ、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の示す保育の基本及び保育内容の考え方や指導法について理解する。

到達目標

１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し説明することができる。
２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解し、説明することができる。
３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解し、作成することができる。
４．保育の多様な展開について具体的に理解し、保育内容の関連から事例の読み取りや考察をすることができる。

学位授与の方針

【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　保育内容の歴史的変遷とその社会的背景
02　保育所保育指針に基づく保育内容の理解
03　幼稚園教育要領に基づく保育内容の理解
04　幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の理解
05　子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方　視聴覚教材活用
06　養護と教育が一体に展開される保育　視聴覚教材活用
07　子どもの主体性を尊重する保育　視聴覚教材活用
08　環境を通して行う保育　視聴覚教材活用
09　生活や遊びによる総合的な保育　視聴覚教材活用
10　個と集団の発達を踏まえた保育　視聴覚教材活用

11　家庭や地域等との連携を踏まえた保育　視聴覚教材活用

12　小学校との連携・接続を踏まえた保育　視聴覚教材活用

13　多様な家族のニーズに応じた保育　視聴覚教材活用

14　特別な配慮を要する子どもの保育　視聴覚教材活用

15　多文化共生の保育　視聴覚教材活用

授業時間外の学修	【事前学修】 ・教科書「保育内容総論」を一講ずつ進めていくので、該当箇所を読む。 ・演習問題については自分の解答を考え、ノートに記載しておく。 その際の記載方法は、第一講演習自分の考えと項目を記載し、次の行から解答を記載する。(1時間) 【事後学修】 ・講義で使用した教材を読み返し疑問点がないか確認すする。調べたり、読んだりすることを指示されたものは必ず行うこと。調べたことはレポートとして提出、読んだことは、自分の感想や意見をレポートに記載する。詳しくは講義で指導します。(1時間)
評価方法	・講義への取り組み（グループワークなど）　20% ・レポートや課題への取り組み（提出）　30% ・定期試験　50%
アクティブラーニング	・事前の学修における演習問題に自分の意見や考えを述べる。 ・講義の中で、様々なグループワーク（討議・発表・説明）を行う。 ・グループでテーマ設定を行いプレゼンアプリ（パワーポイント等）を用いて発表する
フィードバック	・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に、保育に対しての自分の考えが深まったり、違った視点の発見や視野が広がったりするような聞き方を課します。 ・レポートについては、教員のコメントを記入し返却します。
実務経験	○　・教員経験35年、その間13年の教育行政経験を踏まえ、幼児教育から小学校・中学校・高等学校と教育は継続していること基礎にしながら、とりわけ幼児教育がその後の教育の成否に果たす割合が高いことを伝えていきます。
教科書	保育内容総論　石川昭義　中央法規
参考書	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント 汐見稔幸/無藤隆　ミネルヴァ書房編集部 幼児教育　小玉亮子　ミネルヴァ書房
備考	グループ活動を取り入れた講義となりますので、積極的に参加するには、お互いの意見を尊重しながら聞くということを大事にしてください。そのためには、まず自分の考えを持つこと、相手とどこが同じでどこが異なるのかに注意を払って聞いてください。まずは幼児教育に関する書籍については授業内でも紹介しますが、本校の図書館を訪れ、司書の先生から幼児教育に関する書籍についてレファレンスを受けノートにメモしてください。

ナンバリング	21221		科目名	乳児保育I

担当教員	橋本 祥子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☑ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

乳児の発達や遊びを理解し、乳児保育についての基本的知識や現状と課題について習得していきます。保育所（園）、認定こども園、乳児院等多様な保育の場における子どもたちの発育・発達を踏まえた保育内容について、映像を見ながら理解を深めます。乳児期における保護者以外の大人との結びつきによる育ちを学ぶことで、保育士としての役割や必要とされる責任感について学んでいきます。

到達目標

乳児保育の意義・目的と役割等について理解し、実践に結びつけることができるようになります。乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになります。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになります。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　乳児保育を社会的背景から考える

02　乳児保育の歴史と現状を理解する

03　乳児保育の役割と機能について

04　乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題

05　保育所における乳児保育　DVD視聴

06　保育所以外の児童福祉施設における乳児保育

07　家庭的保育における乳児保育と、その家庭を取り巻く環境と子育て支援の場

08　3歳未満児の生活と環境　グループワーク等

09　3歳未満児の遊びと環境　模擬保育（キッズルームでの実際）　グループワーク

10　3歳以上児の保育に移行する時期の保育

11　3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりや保育における配慮

12　乳児保育における計画・記録・評価とその意義　グループワーク

13　職員間の連携・協働

14　保護者との連携・協働及び自治体や地域の関係機関との連携・協働

15　まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 乳児を育てる母親及び家庭に関わる新聞記事の切り抜きをノートに貼ってまとめる。（約1時間） 【事後学修】 授業内容（乳児保育の歴史と現状やポイント・保育所の一日など）について、友人や家族とディスカッションを行い自分の意見をノートにまとめる。（約1時間）
評価方法	授業への取り組み15%　テスト50%　提出物等35%（提出期限・適切な表現・内容・課題の考察・誤字脱字等）
アクティブラーニング	グループワーク　映像活用学習　体験学習
フィードバック	提出物には、評価とコメントをします。
実務経験	◯　認定こども園副園長、子育て支援広場の企画・運営・指導等の実務経験を活かして、乳児の発達や遊びを理解し、乳児保育についての基本的知識や現状と課題について授業を行っている。
教科書	はじめて学ぶ乳児保育　　編集者　志村聡子　　同文書院
参考書	保育所保育指針解説　厚生労働省編　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省
備考	授業内での発表やレポートについて、その都度フィードバックを行います。

ナンバリング	22221		科目名	乳児保育II

担当教員	富田 浩子

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

保育所における 0、1、2 歳児の生活や遊びの様子を通して、その時々の対応や関わり方について具体的に学びます。また、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際、職員間の協働及び保護者や地域の関連機関との連携と意義を具体的に学び、課題研究をします。さらに、主体的・対話的で深い学びの姿勢で学習に取り組むためにグループワーク、ロールプレイ・ディスカッション、振り返り等の方法を用いて展開します。

到達目標

(1)乳児保育の意義や必要性及び保育ニーズを理解することができます(2)乳児保育 1 で得た知識を活かし、子どもの個性や発達の様子を手がかりにし、その時々に合った対応や工夫を考える力を付けます(3)0、1、2歳児クラスの一日の生活の流れやそれを支える環境及び 援助等を理解し身につけます(4) 3 歳未満児の指導計画の立案の仕方を理解し、作成できます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 ガイダンス
乳児保育1と乳児保育2について

02 乳児の生活の現状と課題

03 認可保育所の詳細と事例研究　～グループディスカッション～

04 保育所保育指針から学ぶ認可保育所

05 保育所の乳児保育

06 1回から5回までの振り返り・小テスト(1)

07 0歳児の生活と遊び

08 1歳児の生活と遊び

09 2歳児の生活と遊び

10 3歳未満児クラスの指導案作成のポイント

11 6回から10回までの振り返り・小テスト(2)

12　乳児院の乳児保育

13　保育所の事例から学ぶ食物アレルギー対応

14　乳児保育の環境

15　1回から14回までの振り返り・小テスト(3)
まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 保育所や乳幼児等に関する新聞記事に興味関心をもち、その切り抜きをノートに貼ってまとめ感想を書く。 (約1時間) 【事後学修】 毎回の授業のテーマについて復習し、所定の用紙にまとめる。 0、1、2歳児の部分実習指導案を作成する。 (約1時間)
評価方法	授業への取り組み 50%　小テスト20% 課題・提出物等への取り組み 30%
アクティブラーニング	グループディスカッション　ロールプレイ　映像活用学修　事例研究
フィードバック	毎回毎の振り返りシートの記入後,教員のコメントや質問への回答を記入して、次週に返却します。
実務経験	○　保育所や幼稚園に勤務していた実務経験を活かし、0、1、2歳児の発達に添った保育を具体的に示しながら、乳児保育の基本的知識や現状と課題について授業を行う。
教科書	なし 適宜資料を配布します
参考書	保育所保育指針解説　厚生労働省編 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省
備考	適宜、配布したプリントをファイルにまとめる。 授業内で簡単な製作をすることがある。

ナンバリング	21211		科目名	教育実習指導
担当教員	加茂川くるみ/森井榮治			

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☑ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（プ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（プ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）

授業概要	教育実習の意義や留意事項などについて学びを深め、保育活動や教材研究の要点などについて説明を受けながら確認し教育実習を充実したものにしていきます。保育者を目指す者としての心構えや意欲・態度の高揚を図るとともに、実習に必要な資質･能力・技術について学びます。
到達目標	1.実習の目標を明確にして、実習日誌が書くことができます。2.実習手続き、プロセスを円滑に進められるようにし、実習の基本的な知識や技術を理解します。2.実習に必要とする教材の準備について学びを深めていきます。3.認定子ども園大成学園幼稚園などの附属園において第1段階（見学・観察実習）第2段階（参加・部分実習）を実施することで、更に第3段階（幼稚園外部実習）に繋げることができます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　　授業の意義・目的・内容

02　幼稚園教育実習とは（1）実習の意義と目標（2）実習の心得

03　教育実習の目的理解（1）養成校での学び（2）保育者の仕事を具体的に学ぶ

04　幼稚園実習の心構え1　　実習直前の準備

05　幼稚園実習の心得え2　　実習園の理解を深める

06　参加・観察実習の事前指導(1)実習で何を学ぶか（2）記録の仕方とまとめ

07　幼稚園教育実習で学ぶこと１　　教育実習生として遵守すべき義務等について理解する。

08　幼稚園教育実習で学ぶこと2　　幼児とのかかわりを通して、観察・参加実習等の記録の仕方を学ぶ・グループディスカッション

09　幼稚園教育実習で学ぶこと3　　保育者の職務内容を理解する・ロールプレイ

10　幼稚園教育実習の実際（1）幼稚園に慣れる（2）子どもの発達について理解する（3）視聴覚教材を活用しながら、幼児の遊ぶ場面を観察し理解する

11　実習課題の立て方　　実習の抱負や課題について理解する

12　実習日誌の書き方と記録1　　記述方法とその記入の仕方

13　実習日誌の書き方と記録2　　具体的記入とその振り返り

14　幼稚園教諭への道　　教育実習の実践に向けての事前・事後指導の在り方を理解する。

15　幼稚園教諭に求められる今日的課題・まとめ

授業時間外の学修	【事前学修】 実習関係報告書類等の方法や手順を理解し、スムーズに手続きができように準備を行います。(約1時間) 【事後学修】 保育現場での取り組みを想定し、自主的に実践の計画を立て必要書類等を整えていきます。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み（20%）提出物（40%）見学、観察実習レポート・実習日誌（40%)
アクティブラーニング	グループディスカッション　ロールプレイ　画像活用学習
フィードバック	提出物に、コメントを記入し助言指導をして返却します。
実務経験	○　国公立幼稚園教諭、公立幼稚園教諭・教頭、認定こども園副園長等の実務経験を活かし、保育現場の具体的な事例を示しながら実践的な授業を行います。
教科書	幼稚園実習　小川　清実　ななみ書房
参考書	実習ガイドブック 茨城女子短期大学 ﾌｫﾄﾗﾝｹﾞｰｼﾞで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌指導計画　神永直美 萌文書林
備考	実習同様、無断欠席や遅刻は認められていないので、注意しましょう。 実習生としてふさわしい言動がとれるように日常生活において挨拶やマナーについてしっかり身につけておきましょう。認定子ども園大成学園幼稚園などの附属園にて、教育実習・行事実習を実施しますので、誠実な態度で臨めるよう心掛けましょう。

ナンバリング	22221		科目名	保育実習指導I-A

担当教員	佐藤 隆

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

保育士資格取得を目指す学生として、実習の意義と目的について認識すると共に、保育実習に必要な「専門知識」・「専門援助技術」及び「関連知識」とは何かを考え、しっかりとした目的意識を持って実習に臨めるようにします。授業は、グループワーク、ディスカッション、振り返り等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れて行います。児童福祉現場に携わる職員（園長・保育士等）の講話や視聴覚教材等の活用により、心動かされる多様な体験と講義、グループでの演習を通して、保育実習への基本姿勢、基本的知識を得ながら課題を共有します。

到達目標

１．実習の目的、内容、方法、留意事項などを具体的に理解します。２．保育活動に必要な教材を準備し、基本的な保育技能、技法を身につけます。３．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標に明確にし、考察できる力を身につけていきます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　保育実習とは～オリエンテーション～

02　保育士とは（保育士資格と保育実習の意義と内容）

03　保育士の職務と保育所の1日

04　発達の特徴を調べよう

05　発達の特徴のまとめ

06　保育実習を行うために必要な準備とは

07　実習日誌の書き方

08　先輩から学ぶ～先輩保育士の講話～

09　部分実習指導案の作り方

10　保育実習の抱負・研究テーマを考える

11　実習のオリエンテーションの意義と内容

12　子どもと楽しむ活動のアイディア

13　保育実習の実際（心構えと気を付けたいこと）

14　学内オリエンテーション～外部講師講話～

15　実習のアルバムの内容と作り方

授業時間外の学修	【事前学修】 保育実習に向けて指定された課題を授業時までに作成し準備します。実習に関する書類等の方法や手順を理解し、スムーズに手続きができるようにしてください。(約1時間) 【事後学修】 授業で学んだことを基に保育現場で実践できる内容と方法について検討し準備します。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み（30%）課題レポート（50%）実習日誌・提出物（20%）
アクティブラーニング	グループディスカッション　ワークショップ　ロールプレイ
フィードバック	提出レポートに教員のコメントを記入して返却し、助言指導を行います。質問や疑問には個別に対応するとともに必要に応じて全体にフィードバックします。
実務経験	○　幼稚園で勤務していた実務経験を活かし、現場の実践を通して保育者に求められる資質向上を図れるよう実践的な授業を行う。
教科書	保育所実習　山岸道子　ななみ書房 ISBN978-4-903355-09-2C3037
参考書	実習ガイドブック　茨城女子短期大学 ﾌｫﾄﾗﾝｹﾞｰｼﾞで学ぶ（子どもの育ちと実習日誌・指導計画）神永直美　萌文書林　ISBN978-4-89347-239-7C3037 保育所保育指針解説書　厚生労働省
備考	実習に向けて基礎準備を整えていきましょう。実習生に必要な能力として、自分の考えを明確に文章化・言語化する力を習得しましょう。授業では、話し合いや演習、外部講師による講話等を取り入れます。授業での課題については、個別のフィードバックを行いますので、積極的に参加しましょう。また、定められた期限までに確実に諸手続を行う処理能力を身につけましょう。

ナンバリング	22221		科目名	保育実習I（保育所）

担当教員	佐藤/助川/安藤/国府田/馬立/加茂川/小口/森井/白土/八木澤

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☑ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司）	☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保）	☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘）	☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要	(1)保育所の役割や機能の具体的展開を学びます。(2)観察に基づき、乳幼児の発達と保育を理解します。(3)子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等連携を学びます。(4)指導計画の作成、実践、観察、記録、評価について理解します。(5)保育士の業務と職業倫理について学びます。(6)自己の課題の計画化を理解します。
到達目標	(1)保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めます。 (2)子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深めます。 (3)既習の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深めます。 (4)保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解します。 (5)保育士としての自己の課題を明確にします。
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【こども学科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　保育実習Ⅰ（2月）外部保育所（園）10日間。
内容については、実習期間内に以下の項目を中心に総合的に取り組むものとする。
１．保育所の役割と機能
（１）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

12

13

14

15

授業時間外の学修	【事前学修】 ・部分実習について、計画し準備する。 ・部分実習の指導案を作成し、指導を受け、準備する。 ・保育所の現状と課題について、関心をもち調べる。 ・自己の振り返り、保育者としての資質・能力の向上に努める。学修の目安は約1時間程度とする。 【事後学修】 その日の実習を振り返り、考察等を踏まえて実習日誌に記載をする。実習後の振り返りを通して、実習内容を確認し記録にまとめる。事後学修の目安は、約1時間とする。
評価方法	外部実習評価（70%）実習日誌（30%）
アクティブラーニング	実習担当教員との双方向性の学び　ディスカッション
フィードバック	実習日誌と指導案等に関して、学生からの質問について個別にフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	なし
参考書	茨城女子短期大学こども学科実習ガイドブック　フォトランゲージで学ぶ　萌文書林　保育所保育指針
備考	

ナンバリング	21271		科目名	こども音楽療育概論

担当教員	馬立 明美

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☑ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

音楽の始まりや音楽の社会的、心理的、生理的働きについて学び、子どもの心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びの関係、音楽療育の意義についてグループに分かれディスカッションを交え考察していきます。また、様々な障がい児についての理解を深めながら、音楽療育活動を行うための基礎知識・専門知識を修得します。

到達目標

(1)音楽療育の基礎知識を説明することができるようになります。(2)子どもの音楽療育活動の実際から、日常の保育に活かす音楽活動やこども音楽療育について考察することができるようになります。(3)音楽の活用について理解し、実践に活かすことができるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　こども音楽療育士の資格について

02　子どもと音楽：子どもにとってのリズムと音

03　音楽療育の意味：目的と方法

04　音楽の働き：生活の中の音・音楽　なぜ音楽なのか

05　障害児の理解１：発達障害児と音楽

06　障害児の理解２：重症心身障害児の理解

07　障害児の理解３：様々な障害とその生活

08　音楽・音楽療法の歴史：音や音楽の意味、音楽の始まり

09　障害児と子育て支援：保護者への支援　多職種との連携

10　こども音楽療育で使用する楽器：音の大きさ、楽器の大きさ、鳴らし方の工夫

11　こども音楽療育で使用する用具：形、色、大きさ、持ちやすさの工夫

12　音楽療育と音楽教育：アセスメントの重要性（子どもに寄り添うには）

13　こども音楽療育の現場：障害児または障害児を含む子どもたちへの支援方法

14　こども音楽療育実習に向けての心構え：挨拶声かけの言葉選び

15　まとめ：こども音楽療育士に求められるもの

授業時間外の学修	【事前学修】 これまで経験した音楽や、生活の中の音やリズムなどに目を向け、音楽の使われる場面や自分自身が心地よいと感じる音などを書き留めておいてください。また、日常の中の音に耳を傾け、その音の意味を考えておいてください。（約2時間） 【事後学修】 授業で学んだことや疑問に感じたこと（音楽の歴史、音楽の効果など）について家族や友人とディスカッションを行い、自分や周りの意見をまとめてください。（約2時間）
評価方法	授業への取り組み40%、小テスト2回（到達度を確認するためのもの）30%　提出物30%
アクティブラーニング	グループディスカッション　ロールプレイ　映像活用学習
フィードバック	提出ノートやプリントには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　児童発達支援センター、重症心身障害児施設、児童心理治療施設での音楽療法士としての経験を活かし、こども音楽療育士として実践するための基礎知識、専門的知識を修得する授業を行います。
教科書	下川英子著（2011）『統合保育・教育現場に応用する　音楽療法・音あそび』音楽之友社
参考書	必要に応じて適宜配布
備考	・観察実習、ワークショップに向けて、多くの手あそび歌、季節の歌を習得すると、指導案プログラムが広がります。見たり聴いたりして自分のものにしておくことを望みます。

ナンバリング	22271		科目名	こども音楽療育演習

担当教員	馬立明美/八木澤香菜

年度	2024	年次	☑ 1 ☐ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☐ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☑ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

障害児および障害児を含む保育の現場で活用できる歌唱、手遊び、身体運動、楽器活動を体験し、音楽療育指導案の作成ができるようになります。また、障害児を理解した上で、音やリズムを通してのかかわり方を学ぶとともに、日常の保育の中で寄り添った音楽が提供できるための技法を実践します。

到達目標

アセスメント、プログラム、指導案の作成、楽器や楽譜の準備、会場の環境設定の方法が習得できます。また、楽器の鳴らし方、用具の使い方、提供の方法をロールプレイングシュミレーションにより実践できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。

☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。

☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。

☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。

☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。

☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01　オリエンテーション　こども音楽療育士の活動について

02　音楽の力　子どもと音楽　(1)わらべうた　(2)童謡・唱歌を探る

03　療育としての音楽１　(1)楽器の種類と使い方　(2)音の鳴り方

04　療育としての音楽２　(1)用具、道具の活用法　(2)感覚刺激

05　音楽のジャンルと使い方　(1)歌唱　(2)リズム体操　(3)楽器活動　(4)手あそび歌

06　楽器あそびと合奏１　(1)リズム楽器　(2)ドラムサークル

07　楽器あそびと合奏２　(1)音階楽器　(2)旋律と和音

08　音楽療育用具　(1)制作、修理（楽器・用具）　(2)歌詞、ペープサート　グループワーク

09　音楽療育用具　歌と道具のコラボレーション
　グループ発表とディスカッション

10　親子音楽セッションの意味と目的　保護者への対応法
子どもの身体と心を動かす音楽の使い方

11　保育に活かす音楽１　年齢ごとの歌あそび、手あそび（模倣・創作）

12　保育に活かす音楽２　状態ごとの歌体操、リズム体操、ゴーストップ　子どもを想定したセッション

13　実習に向けて１　指導計画案（グループワーク）（障害児を含む園児の場合）

14　実習にむけて２　　ディスカッションによるプログラム作成　（グループワーク）

15　こども音楽療育演習のまとめと実習に向けて（音楽療育でできること）

授業時間外の学修	【事前学修】 様々なジャンルの音楽を楽しみ、季節の歌や手遊び歌、わらべうたなどを覚えておいてください。(約1時間) 【事後学修】 小物楽器（鈴やカスタネットなど）の鳴らし方、使用方法の工夫を書き残し、実践できるようにしましょう。(約1時間)
評価方法	授業への取り組み50%、提出物（指導案プログラム、プリントなど）50%
アクティブラーニング	ロールプレイングシュミレーション　グループディスカッション
フィードバック	提出ノート・プリントには教員のコメントと評価を記入して返却します。
実務経験	○　児童発達支援センター、重症心身障害児・者施設、児童心理治療施設で音楽療法士としての実務経験を活かし、こども音楽療育演習について実践できるための授業を行う。
教科書	適宜プリントを配布します。
参考書	板野和彦著　(2015)　『一人一人を大切にする　ユニバーサルデザインの音楽表現』　萌文書林 下川英子著（2011）『音楽療法・音あそび　統合保育・教育現場に応用する』　音楽之友社
備考	・授業内での発表やロールプレイングシュミレーションについて、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	26211		科目名	教育実習

担当教員	加茂川/森井/助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/白土/小口/八木澤

年度	2024	年次	☑ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習

区分		資格関連				
	☐ 必修（卒）		☑ 必修（幼）	☐ 必修（上秘）	☐ 選択必修（プ）	☐ 選択（上秘メ）
	☐ 選択必修（卒）		☐ 必修（保）	☐ 必修（上秘メ）	☐ 選択（幼）	☐ 選択（プ）
	☐ 選択（卒）		☐ 必修（音療）	☐ 必修（プ）	☐ 選択（保）	☐ 選択（音療）
	☑ 選択		☐ 必修（准）	☐ 選択必修（幼）	☐ 選択（司）	
			☐ 必修（司）	☐ 選択必修（保）	☐ 選択（上秘）	

授業概要

教育実習の目的と意義を理解し、幼稚園の役割や機能について学びます。幼稚園における幼児の生活と幼稚園教諭の役割や援助について理解していきます。実習園の実情にそって指導計画の立案や記録の整理（実習日誌等）を学びます。総合的な保育技術を習得していきます。

到達目標

(1)幼稚園の機能や役割について具体的な実践を通して理解を深めます。
(2)幼児の観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育への理解を深めます。
(3)既習の知識、技術を活かして実習に取り組むことで、計画・実践･観察・記録・自己評価等について理解を深めると共に、幼稚園教諭の職務への自覚を深めます。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01

1年次　教育実習（認定こども園大成学園幼稚園・かさまこども園）　7日間
2年次　教育実習（外部）　13日間

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

12	
13	
14	
15	
授業時間外の学修	【事前学修】 部分実習について計画し、準備する。また部分実習の指導案を作成し、指導を受ける。指導された点について改善する。(約１時間) 【事後学修】 その日の実習を振り返り、省察し、実習日誌に記録する。また自己の取り組みを振り返り、保育者として資質・力量の向上に努める。(約１時間)
評価方法	外部評価（70%）実習日誌（30%）
アクティブラーニング	幼稚園等で実習をする。
フィードバック	実習日誌や部分実習の反省について、個別のフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	
参考書	実習ガイドブック　茨城女子短期大学 ﾌｫﾄﾗﾝｹﾞｰｼﾞで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画 幼稚園教育要領
備考	

ナンバリング	26271		科目名	こども音楽療育実習

担当教員	馬立明美/八木澤香菜

年度	2024	年次	☑ 1 ☑ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☑ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習

区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☑ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☑ 必修（音療） ☐ 必修（准） ☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 必修（プ） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択必修（プ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司） ☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（プ） ☐ 選択（音療）

授業概要

障害児施設、障害児の特性や発達段階を理解した上で、障害児施設で行っている音楽療育、音楽療法を見学、観察します。また、音楽指導案、プログラム作成、教材選び、楽器準備、環境構成などを整え、付属幼稚園および学内ワークショップで音楽療育の実習を行います。

到達目標

(1)ワークショップを実施するまでの方法を学び、実習に臨むことができます。
(2)アセスメント、プログラム作成、楽器や用具の準備を整え子どもに寄り添った音楽活動での対応ができるようになります。
(3)こども音楽療育実習日誌の書き方を理解し記入できるようになります。

学位授与の方針

【表現文化学科】

☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

01 ガイダンス　こども音楽療育実習の意義・目的・内容について
観察実習事前指導（１）実習日誌の書き方・アセスメントについて

02 観察実習事前指導（２）各障害児施設について　役割と機能、支援法

03 こども音楽療育見学・観察実習1-1（児童発達支援センター）

04 こども音楽療育見学・観察実習1-2（児童発達支援センター）

05 こども音楽療育見学・観察実習2-1（重症心身障害児通園施設）

06 こども音楽療育見学・観察実習2-2（重症心身障害児通園施設）

07 こども音楽療育見学・観察実習3-1（ワークショップ観察）

08 こども音楽療育見学・観察実習3-2（ワークショップ観察）

09 こども音楽療育見学・観察実習　フィードバック・発表

10 こども音楽療育見学・観察実習　実習日誌まとめと提出

11 付属幼稚園実習に向けて（１）グループワークによる音楽指導案、プログラム作成

12 付属幼稚園実習に向けて（２）グループワークによる指導案まとめ　使用楽器、教材作成準備

13　付属幼稚園実習に向けて（３）ディスカッションにより担当・進行内容の確認

14　付属幼稚園実習に向けて（４）担当ごとの準備（用具作成・個人練習・MCなど）

15　付属幼稚園実習準備　模擬セッション（１）

授業時間外の学修	【事前学修】 作成した指導案・プログラムを把握し、伴奏の練習、歌唱の歌詞や手遊びをしっかり覚えてください。（約2時間程度） 【事後学修】 実習を振り返り、行ったこと、声かけ、子どもの様子や反応、感じたことを丁寧に実習日誌に記録してまとめてください。（約2時間程度）
評価方法	授業への取り組み30%、プログラム作成と実習日誌30%、附属幼稚園実習およびワークショップへの参加意欲40%
アクティブラーニング	グループディスカッション　クリエイティブセッション　ケースメソッド
フィードバック	提出プリント、ノートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○　児童心理治療施設、児童発達支援センター、重症心身障害児・者施設で音楽療法士としての実務経験を活かしこども音楽療育実習について実践的な授業を行います。
教科書	必要に応じて適宜配布
参考書	島田徳英(2013)「簡易伴奏による実用版こどものポップス大集合」デプロMP 下川英子（2011）『音楽療法・音あそび　統合保育・教育現場に応用する』音楽之友社
備考	授業内および実習内で、その都度フィードバックを行います。 ＊施設での観察実習（一人3回）付属幼稚園実習（一人1回） 学内ワークショップ（一人1回）